



平成23年度

川口市児童生徒  
学力向上  
アイデア実践事例集

第6集

川口市児童生徒学力向上推進委員会

平成24年3月



## あ い さ つ

川口市教育委員会教育長 神山 則幸

このたび、平成23年度川口市児童生徒学力向上推進委員会の研究成果として、「川口市児童生徒学力向上アイデア実践事例集」第6集が刊行される運びとなりました。

平成24年度は、小学校に引き続き、中学校でも新学習指導要領が全面実施となります。新学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用し、思考力・判断力・表現力をはぐくむという学力観についての位置づけがなされています。また、記録、説明、批評、論述などの言語活動を充実させることを通して各教科等の目標とする力をはぐくむこと、体験的な学習や探究的な学習を展開し、個に応じた指導を充実させる指導方法の工夫改善を進めることなど、学力向上にむけた取組の内容が具体的に示されています。

本市では、子どもたちに確かな学力を身につけさせるため、埼玉県「教育に関する3つの達成目標」の検証結果や「埼玉県学習状況調査の結果」について分析を重ね、各学校の真摯な取組によって、徐々に成果が現れてきております。一方、課題も明確になってきており、一層自校の課題に向き合うことや、授業の充実を図ることなど、今後さらに研究を深めていくことも必要となっております。

さて、本事例集の発行は、学力向上研修講座や学力向上支援事業と並び、川口市児童生徒学力向上推進委員会が行う重要な事業の一つとなっております。本年度で第6集となり、これまで以上に各学校の授業改善につながるアイデア集となるよう、事例の厳選に努め、掲載内容も活用のしやすさをさらに追求し、コンパクトにまとめてあります。また、先生方が求める事例を容易に見つけることができるよう、「活用の仕方」を冒頭で紹介するなど、工夫を凝らしてあります。さらに、各学年や教科ごとにいつでも手に取ることができるよう、配布冊数も学校規模に応じて増やしましたので、各学校におきましては、児童生徒の実態に合わせ、本冊子を有効に活用していただきたいと思います。

終わりになりますが、本冊子を発行するにあたりご尽力くださった学力向上推進委員会委員の皆様に対し、深く感謝の意を表するとともに、各学校におきましては、今後とも児童生徒一人一人に「確かな学力」を身につけさせるために、指導の工夫と改善に努められるようお願い申し上げあいさついたします。

平成24年3月

# 目 次

あいさつ	口市教育委員会教育長 神山 則幸	1
目 次		2
活用の仕方		3
<b>国 語</b>		
事例 1	「ようすをあらわすことば」の言葉貯金をしよう！ ～『言語活動の充実』を日常生活にも広げて～	6
事例 2	読み取ったこと、感じたことを自分の言葉で表現しよう！ ～めざせ、発表名人！聞き名人！～	10
事例 3	PISAの問題に挑戦！ ～情報を読み取り、論理的に表現する～	14
事例 4	聞き取りメモの達人になろう！ ～メモの取り方を工夫しよう～	16
<b>社 会</b>		
事例 1	教科書を効果的に活用して社会科嫌いをなくそう ～教科書かんたん活用 3つの方法～	20
事例 2	楽しく繰り返して学習し、知識を増やそう！ ～学ぶ意欲を高める授業の導入の工夫～	23
事例 3	情報通信ネットワークの活用 ～インターネットビデオ電話の授業実践と可能性～	26
事例 4	歴史上の先人たちを賞賛し、感謝状を贈ろう！ ～ライフスキル(生きる力&技)学習内容を活用した実践～	29
<b>算数・数学</b>		
事例 1	児童の「表現力」が高まる授業を目指して ～「表現力とは何か」とらえた5年「平均」の授業づくり～	32
事例 2	教えて考えさせる授業展開の工夫 ～学習内容の確実な定着に向けて～	34
事例 3	個に応じた学習指導の工夫 ～一人一人の習熟度に応じたワークシートの活用～	36
事例 4	数学の授業における言語活動について ～教師の適切な一言で言語活動の充実した授業に～	38
<b>理 科</b>		
事例 1	パターン化で思考力、表現力がアップするノート指導の工夫 ～自ら学ぶ意欲を育てるノート指導～	40
事例 2	わかる授業・確かな学力へ向けて ～大型テレビを活用した授業づくり～	42
事例 3	目で見て感じて理解を深める！ ～印象に残る演示実験～	44
事例 4	生徒の視覚に訴える授業の工夫 ～視聴覚機器を活用した授業の工夫～	46
<b>英 語</b>		
事例 1	「話して、書いて、身につける」 ～導入時に使えるダイアログ集～ ～「話す」「書く」を同時にできる English Talking～	48
	バックナンバーもぜひご活用ください	54
	平成 23 年度 川口市児童生徒学力向上推進委員名簿	59

この冊子は、先生方のこんな悩みの解消に役に立ちます。

## 国語

小学2年生

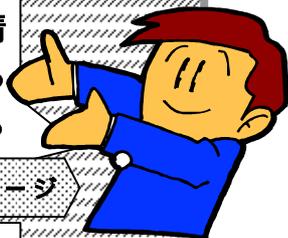


いろいろな場面で、その時の様子を詳しく伝えることのできる力を身に付けさせたいのですが……国語の授業だけでなく、日常生活の中や、家庭との連携において、児童の語彙を増やしたり、適切な表現ができる子どもを育てていく取組のアイデアはありませんか？

6ページへ

「書くこと」の基礎・基本を身に付けて、多くの子どもたちに「書くことが好き！」になってほしいと思います。……情報を読み取り、感じたり考えたりしたことを豊かに表現する力を身に付けさせる授業や、日常生活において楽しみながら書く力を育てるアイデアはありませんか？

小学6年生



10ページ

中学1年生

新学習指導要領では、資料の中から必要な情報を読み取り、論理的に伝える力の育成を重視しているようですが、資料を見つけることもなかなか大変です。……身近な資料を用いて、的確に読み取る力や、分かりやすく表現する力を、楽しく身に付けさせる授業の工夫はありませんか？

14ページ



中学2年生



大事なことを聞き逃さないための上手にメモを取る力は、国語以外の授業においても、また社会生活においても大切な力だと思います。……話を聞きながら、簡潔に、分かりやすく、しっかりとメモを取ることができる力を身に付けさせる授業のアイデアはありませんか？

16ページ

## 社会

小学3～6年生

社会科の授業というと、どうしても教師の説明が中心の学習になってしまいがちです。教科書を活用して、児童が興味・関心を持って学習に参加したり、児童自らが考えるような効果的な学習方法を紹介してください。

20ページ

社会科の学習では、児童の興味、関心に基づく学習活動が大切です。とくに高学年の授業の導入時で、小学生の発達段階も考えて、「楽しく」「効果的に」児童の興味、関心を引き出し、学習を進める授業方法を教えてください。

23ページ

小学5～6年生





教室に常備された大型テレビにインターネット等をつなぐことで、更に効果を上げる学習方法を教えてください。例えば、インターネットを活用し、リアルタイムに学校と博物館や資料館等公共施設をつなぎ、聞きとり調査を行う学習等、準備に時間をかけずにできる学習方法にはどのようなものがありますか？

中学1～3年生

中学1～3年生

26ページ

中学校社会科の学習では、各分野において学習内容が多いため、学習内容の基礎・基本を定着させるために十分な時間を確保することが大切だと言われています。社会科で学習したことを基にし、他教科や領域等と連携することで、学習内容の基礎・基本の見直しや復習ができる学習方法はないのでしょうか？

28ページ



## 算数 数学

小学校5年生



「表現する能力」が、学習指導要領算数科の目標の中に新しく付け加えられました。「表現する能力」とはどんな力なのでしょうか。どのように児童の「表現する能力」を高めていけばよいのでしょうか。5年生の「平均」の授業実践をもとに考えてみましょう。

30ページ

小学校6年生

児童が自力解決をし、その後、クラスで話し合っまとめをしましたが、まだ練習問題の解けない児童がいます。児童一人一人に学習内容の確実な定着を図る指導法の1つとして、「教えて考えさせる授業」を紹介します。どのように教師が説明をすべきか？児童にどんな課題を準備すべきか？この実践例を参考にしてください。

32ページ



中学校1年生

学習意欲が高く向上心に燃えている生徒もいれば、数学への興味をもてず意欲の続かない生徒もいます。ワークシートを工夫すれば、習熟度に応じた授業が展開できると思います。全員が取り組めるワークシートや習熟度に応じたワークシートを紹介してください。

34ページ



新学習指導要領では、言語活動の充実が重要事項として挙げられています。数学の授業で、言語活動を充実させるためには、発問の工夫が大切です。教師の発問と生徒の発言を中心にまとめ、言語活動の充実を図った実践例を紹介します。

中学校1年生

36ページ



# 理科

小学3～6年生

学習指導要領では、言語活動を通して指導することを重視しています。ノートを取り方も言語活動を充実させるためには大切だと思います。観察や実験における図やスケッチの描き方を含めて、ノート指導の仕方を教えてください。

38ページ



児童に、意欲的に、そしてしっかり学習内容をとらえさせるために、映像を利用した指導を行いたいと思います。小学校で、大型テレビを活用した授業を進めるためのよい実践がありましたら、紹介してください。

40ページ

小学3～6年生

中学1～3年生

中学校1～3年生

理科は特に、導入の部分が大切だと思います。授業の導入において行うインパクトのある演示実験には、どのようなものがありますか。演示実験の例と、それを行う場合の注意する点について教えてください。

42ページ

授業で、デジタルカメラやパソコンを活用することが多く行われるようになってきているようですが、どのような単元で活用すると効果的ですか？ICTの活用の仕方と、実践例を紹介してください。

44ページ



# 英語

中学生

英語の4領域の Speaking, Listening は、コミュニケーション活動を多く取り入れた結果、比較的スムーズにできるようになりました。しかし、いざ今話した文を書かせてみると、ミスがいっぱいあります。どうしたら「音声」を「書くこと」に結び付けられますか？

46ページ



この冊子は、先生方のこんな悩みの解消に役に立ちます。

# 国語 小学校2年生 単元名「ようすをあらわすことば」

## 「ようすをあらわすことば」の言葉貯金をしよう！

～サブテーマ～

『言語活動の充実』を日常生活にも広げて

川口市立東本郷小学校 教諭 渡辺美智子



### はじめに

小学校学習指導要領解説には、「言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し、表現する能力、お互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することや、我が国の言語文化に触れて感性や情緒をはぐくむことを重視する。」とある。

小学校においては、日常生活に必要な基礎的な国語の能力を身につけることができるように、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関わる事項〕において言語活動を工夫し、その充実を図るようにしたいと考えた。

### ねらい

日常生活において、児童の言語環境を整えるためにはどのような工夫が出来るか。掲示物を作成したり、話し方や聞き方のルールを決めたりする等、自然と言葉の力が身につくような教室づくりを試みた。

国語学習においては、擬態語、副詞、比喩を使って、様子を表す言葉を考えさせる単元である「ことばについて考えよう『ようすをあらわすことば』」の中で、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」と関連づけて学習が展開できるようにした。また、個人で学習する場面、グループで学習する場面、家の人と一緒に考える場面などを設定し、コミュニケーションを図りながら学習が進むようにし、さらに、ここで学んだことが、日常生活にも生かせるように、朝の会のスピーチや詩を作ることなどの表現活動にも活用してみた。

### 実践例

#### (1) 言語環境を整えることを意識した日常生活

##### 話し方マニュアルの掲示

・発表するとき	名前を呼ばれたら「はい。」立つ。「～です。」
・人にたずねるとき	「質問があります。」「～してもいいですか。」
・答え合わせのとき	「 番。～です。どうですか。」「言い直します。」
・発表会のとき	「これから～の発表を始めます。」「これで～の発表を終わりにします。」
・人の話を聞くとき	「聞こえません。」「もう一度言ってください。」



#### 習った漢字の掲示、漢字リレー



・毎日、1～2文字ずつ  
新出漢字を学習し、  
その漢字を教室に掲示  
している。

## 音読カード（詩の朗読）

- ・『かく』 川崎洋
- ・『おとなマーチ』 阪田寛夫
- ・『愉快な夜想曲』 織田道代
- ・『そうじき』 ねじめ正一

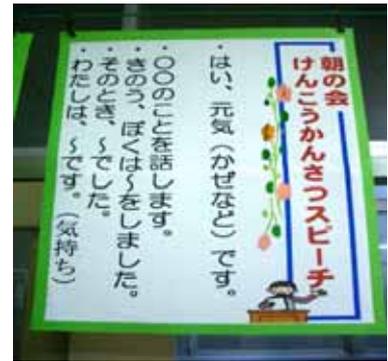


## ボランティアの方による読み聞かせ

- ・3週間に1度、朝読書の時間に読み聞かせをしている。
- ・国語の授業『お話の国の友達』の単元で、ボランティアの方が読み聞かせを行った。

## 朝の健康観察スピーチ

- ・「はい、元気です。」のあとに、話したいことがある子が自由に話をする。
- ・2～3文で話をまとめるようにする。



## 一度で聞き取るトレーニング

- ・準備や片付けなど、やることの指示を3～4つ聞き取り、行動する。
- ・連絡を聞きながら連絡帳に書き取る。

## ことわざ・四字熟語の掲示

- ・民衆社『ことわざ暗唱めぐり』『四字熟語暗唱めぐり』を活用する。中学年で扱う伝統的な言語文化に関する事項であるが、教室に掲示し、ゲーム感覚で言葉について考えたり暗唱したりする。



## 他教科での「言語活動」の充実

- ・算数の授業の中で、言語活動の充実を図る。単元「分数 分けた大きさをあらわそう」「三角形と四角形 形をしらべよう」「かけ算 新しい計算を考えよう」などの比較検討の話し合いの場面等で、自分の考えを説明する。発表の仕方を提示し、それに基づいて話をする。

## (2)言語活動の充実を大切にした授業

国語 単元「ようすをあらわすことば」の流れ（全4時+宿題+朝の会）

教科書に出てくる雨の写真を見て、どんな様子が考える。《1時》

雨が ふっている。

様子をぴったりとあらわす言葉を見つける。

- ・雨がザーザーふっている。
- ・雨がたきのようにふっている。
- ・雨が白い雪のようにふっている。



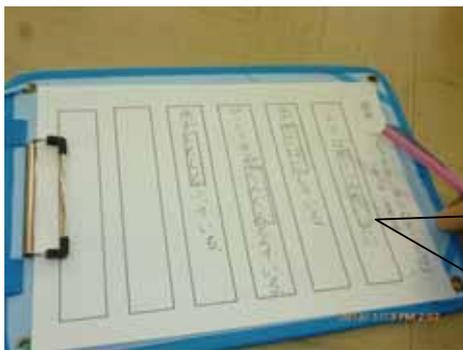
教材文「ようすをあらわすことば」を読む。

擬態語、副詞（形容詞）、比喩について整理してまとめる。



- ・雨がざんざんふっている。
- ・雨がはげしくふっている。
- ・雨がたきのようにふっている。
- ・雨がバケツをひっくりかえしたみたいにふっている。

カルタのようにカードをめくり、言葉を使って文を作る。  
 短い文を作り、プリントに書く。  
 お気に入りの文を1つずつ、全員が発表する。



- ・やきいもが、ほくほくしている。
- ・雪は、こおりみたいにつめたい。
- ・サボテンが、とげとげしている。
- ・まくらが、ふわふわしている。
- ・ビー玉が、ボールのようにころがっていく。
- ・ほうせきが、きらきらかがやいている。
- ・牛が、のんびりと歩く。
- ・人が、ぞくぞくやってくる。
- ・土が水を、じわじわすっている。



絵本の中から、擬態語や比喻表現を見つけ、グループごとにお話作りをする。《2・3時》  
 五味太郎さんの絵本『言葉図鑑』を活用する。



【子どもたちが作ったお話】

赤ちゃんが、よちよち歩いています。  
 そのちょっと前に女の子が、あめをペロペロなめています。  
 その前ににこにこしている男の子がいます。  
 その後ろにラブレターをもった学生がドキドキしています。  
 学生の前には、ラブレターを渡したい女の子が、すすすすと近づいてきます。

様子を表す言葉を集め、『言葉貯金』をする。《宿題+4時》

家の人と一緒に言葉集めを行う。  
 集めた言葉は、『言葉貯金』にし、教室の貯金箱に入れていく。  
 言葉を1つ集めると10円とし、ワークシート1枚分集めると、100円貯金できる。





# 国語 小学校6年生 単元「この絵、私はこう見る」

## 読み取ったこと、感じたことを 自分の言葉で表現しよう！

～サブテーマ～

「書くこと」が好きな  
児童の育成を目指して

川口市立並木小学校 教諭 横田 智子



### はじめに

本単元「この絵、私はこう見る」は、芸術的絵画に触発される様々な自分なりの感じ方やものの見方を大切に、それを一定の全体的理解にまとめ上げ、相互に伝えあう学習展開となっている。児童にとっては、この単元において、作品の世界を読みとることは比較的難しいことであると思われるが、授業展開を工夫したり、「書くこと」のスキルアップを図ったりすることで、子どもらしい表現活動ができるようにしたいと考えた。

### ねらい

<学習指導要領における指導事項>

- 「B 書くこと」(第5学年及び第6学年)
- ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。
- ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。
- カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと。



<身につけさせたい力>

- 選択した絵から情報を読み取り、整理する力
- 読み手に伝わるように表現を工夫して書く力
- 書いた文章を読み取って、表現の良さに気付く力

### 実践例

#### (1)「この絵私はこう見る」の授業実践

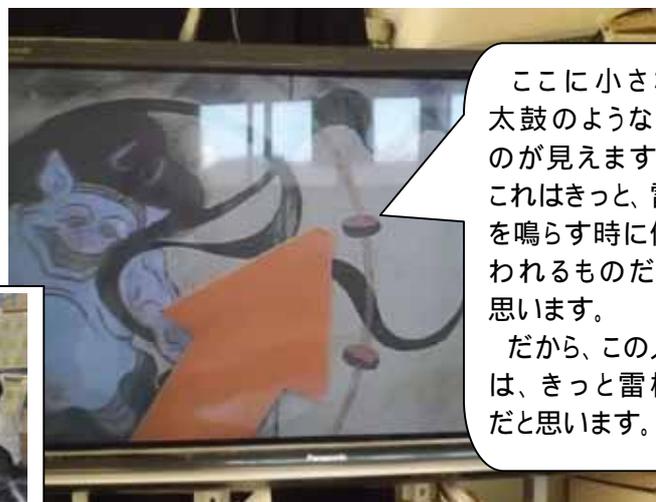
##### 情報機器の活用 【1 / 全4時間】

児童が着目した部分を拡大して提示することによって、より興味・関心を高めることができると考えた。

また、児童の作品を提示しながら、本時のねらいの振り返りをするでも活用した。



着目したところを見せながら発表している



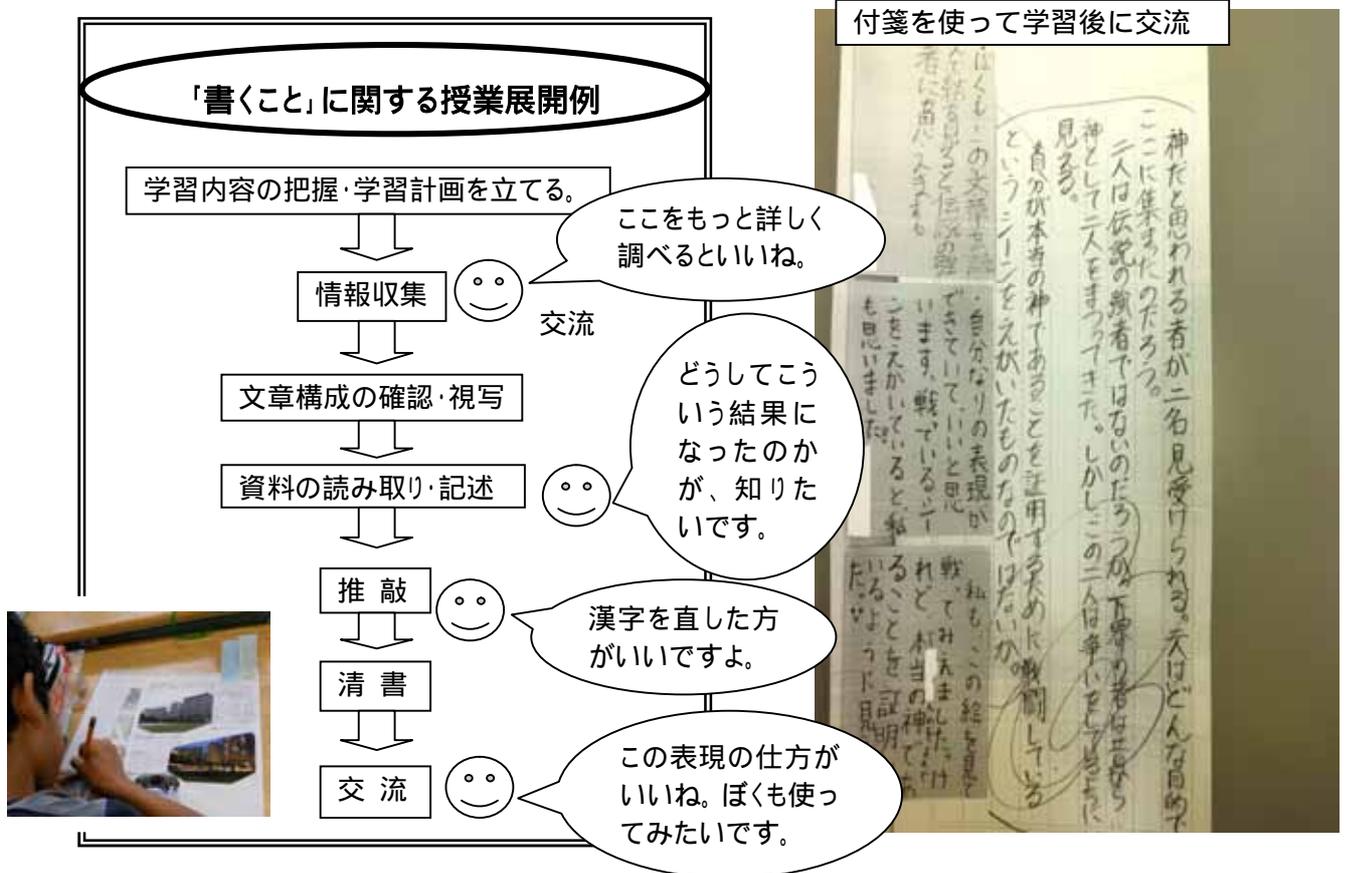
ここに小さな太鼓のようなものが見えます。これはきっと、雷を鳴らす時に使われるものだと思います。だから、この人は、きっと雷様だと思います。



**相互交流** 【1.2.3.4./全4時間】

絵の見方のよさや表現の仕方について助言し合い、もの見方や表現方法を広げるために、付箋を活用した。

また、作品を交流し合うだけでなく、毎時間のねらいの確認をしたり、よりよい表現の仕方を助言し合ったりしている。



**(2)授業外の取組**

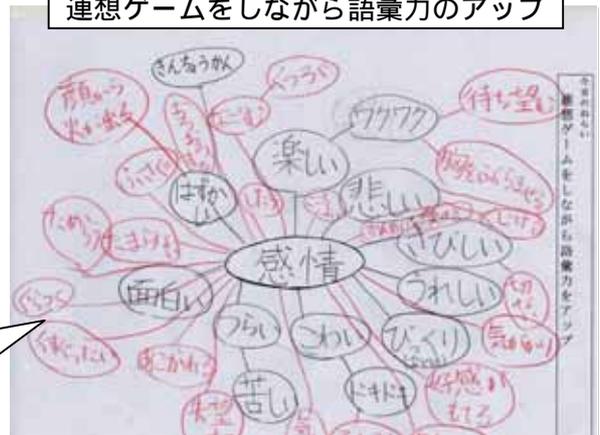
**【スキルアップタイムの活用】**

本校では、週に2回10分間のスキルアップタイム(学習の習熟の時間)がある。その時間を活用して、書く力の育成を図っている。

いろいろな感情に関する言葉集めに取り組んだ。

教科書(光村図書)の5,6年「学習を広げる」を活用しながら、語彙を増やした。

**連想ゲームをしながら語彙力のアップ**



**漢字しりとりをしながら漢字力をアップ**

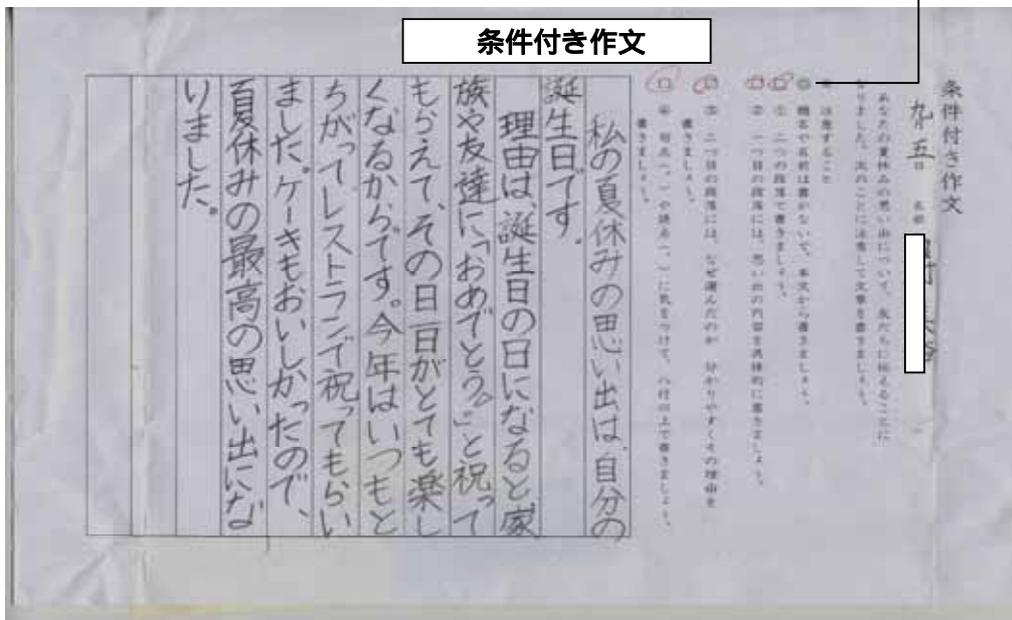


**その他の取組例**

- ・漢字しりとりをしながら漢字力をアップ
- ・実況中継をしながら作文力をアップ
- ・お絵かきゲームをしながら、伝える力、聞き取る力をアップ

## その他の取組例

- ・視写をして原稿用紙の使い方の達人を目指そう
- ・辞書早引き競争
- ・同じ部首の漢字集め大会
- ・ことわざカルタ・反対語カルタ大会
- ・へんとつくりを組み合わせで漢字を作ろう
- ・四文字しりとり
- ・書き順クイズ
- ・今の気持ちを俳句で表現
- ・条件付き作文

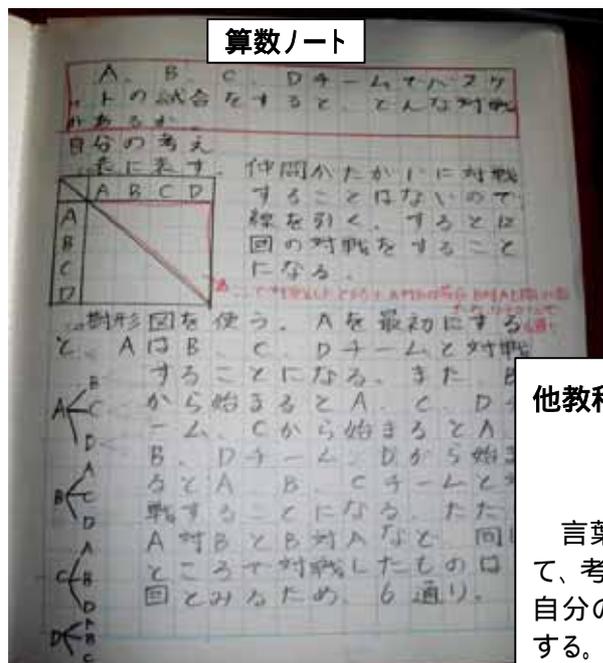


二つの段落を書きまじよう。  
 一目的の段落には、思い出の内容を具体的に書きまじよう。  
 二目的の段落には、なぜ選んだのか分かりやすく書きまじよう。  
 句点（。）読点（、）に気を付けて、八行以上で書きまじよう。

## 成果

様々な取り組みを通して、「書くことが好き」と答える児童が増えた。これは、学習を通して、どのように書いたらよいのかがわかるような型を提示したり、ワークシートを活用したりした成果だと思う。さらに、相手意識・目的意識の確認をしながら交流することにより、書く内容が深まってきた。

今後も「書くこと」が大好きな児童が増えるよう、各教科での言語活動の充実にも力を入れて、表現力の向上を図りたい。



## 他教科と関連付けた言語活動例

(算数科)

言葉、数、図、表、グラフを用いて、考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりする。

# PISA の問題に挑戦！

～サブテーマ～

情報を読み取り、論理的に表現する

川口市立岸川中学校 教諭 寒河江真亮



## はじめに

新しい学習指導要領では「言語の教育としての立場を重視し、特に文学的な文章の詳細な読解に偏りがちであった指導の在り方を改め、自分の考えを持ち論理的に意見を述べる能力、目的や場面などに応じて適切に表現する能力、目的に応じて的確に読み取る能力や読書に親しむ態度を育てる」ことが重視されている。また、それに関わる言語活動例も挙げられている。しかし、日々の教材研究や、学級・学年の仕事に時間を取られ、そのような能力を育てるための教材を開発する時間が十分にとれないという実情もある。そこで、同じねらいを持って作成されている PISA 調査を利用することで、新学習指導要領のねらいに迫る授業の創造を試みた。

## ねらい

情報を的確に読み取り、必要な情報を選び取り、さらに自分の考えを論理的に伝える能力をつけさせることをねらいとした。「読むこと」の言語活動例「イ 文章と図表などとの関係を考えながら、説明や記録の文章を読むこと」として教材化し、資料から情報を読み取り、問題を解いたうえで、「どの部分をどのように読んだのか」を話し合わせる時間に重点を置いた。そうすることで、ただ答えにたどり着くだけでなく、なぜその解答を導き出したのかをより深く考えさせることができ、情報を読み取り、選ぶ力に加えて、自分の考えを相手に分かりやすく伝える力を伸ばすことにもつなげていけるのではないかと考えた。

## 実践例

### (1)「レーシングカーの速度」の授業

単元名「わかりやすく説明しよう」

(光村 「国語1」P48～)

- ・本来は「書く」ことの単元構成となっているが、ここでは情報の読み取りと、「話す・聞く」活動を主として学習することを伝えておく。

授業の目標

- ・必要に応じて質問をしながら聞き取り、自分の考えと比較する(話すこと・聞くこと)
- ・適切な情報を得て、自分の考えをまとめる(読むこと)

授業の流れ

#### 第1時

テスト形式で解く(10分程度 資料1)  
テスト形式とし、生徒自らが必要な情報を読み取る力を育てることがねらいの一つであるため、教師は問題の音読や質問の受付は基本的にしない。回収、評価する。

PISAの問題に挑戦！パート2

レーシングカーの速度

1年 組 氏名( )

下のグラフは、1周3kmの平らなサーキットで、レーシングカーの2周目の速度がどのように変化したかを示したものです。

1周3kmのサーキットでのレーシングカーの速度に留意

問1. スタートラインから、もっとも長い直線コースが始まる地点までの、およその距離は次のうちのどれですか。

A. 0.5km B. 1.5km  
C. 2.3km D. 2.6km

問2. 2周目で、速度が最低を記録した地点は、次のうちどこですか。

A. スタートライン B. およそ0.8km地点  
C. およそ1.3km地点 D. サーキットの中間地

問3. 2.6km地点から2.8km地点の間のレーシングカーの速度について、どんなことが言えますか。次のうちから一つ選んでください。

A. レーシングカーの速度は一定である。  
B. レーシングカーの速度は増加している。  
C. レーシングカーの速度は減少している。  
D. レーシングカーの速度は、このグラフから求めることはできない。

問4. 下の図は、5種類のサーキットを表しています。上に示したグラフのレーシングカー走行したのは、どのサーキットですか。

問5. なぜこのグラフは2周目のグラフを使っているのですか。説明して下さい。

資料1

この段階で評価することで個人の力を把握する。最終的な評価としては次時の話し合いをした後、読み取る情報を正確におさえることできたかを加味する。

## 第2時

グループで考えを交流して解答を確認する（20～25分程度 資料2・3）

前時に解いたプリントを返却し、3～4人のグループで、互いの解答を読み合う。プリント（資料2）を記入をしたうえで話し合いを行い、解答とその理由をグループ全員で確認する。確認した解答やその理由もプリントに記入する（同資料）。話し合いの際は班長に「話し合いのためのカード」（資料3）を配布し、話し合いをスムーズに進めることができるよう配慮した。

グループの意見を発表する（20～25分程度）

テキストを拡大したものを使って、どの部分からどのような情報を読み取り解答を導いたのかを説明する。その際、答えが違う場合、あるいはまだ説明が足りないと思う場合には質問をさせ、答えさせる。質問についても評価することを伝え、発表を聞く態度、自分（自分たちのグループ）の考えと比較しながら聞く能力をつけられるよう意識させる。

相互評価する（5分程度 資料4）

グループ内の話し合いの場面や、全体での意見発表の場面について相互評価する。その後、話し合いのプリント、相互評価のプリントを回収して評価する。

PISAの問題に挑戦！「レーシングカーの速度」～理由をつけて答えを導きだそう～

1年 級 氏 名 ( )

STEP1: 自分や他組の人の答えを確認する。→正しい答えもプリントに書き込む

自分	問1	問2	問3	問4	問5
1人目:	( )	A B C D	A B C D A B C D A B C D E	間違	
2人目:	( )	A B C D A B C D A B C D A B C D E	間違		
3人目:	( )	A B C D A B C D A B C D A B C D E	間違		

STEP2: 問1のグループの答えと自分の考えを決定する。→話し合った後、プリントに書き込む

問1	グループの答え	A	B	C	D	E
理由						

STEP3: 問2・3のグループの答えと自分の考えを決定する。→話し合った後、プリントに書き込む

問2	問3	グループの答え	A	B	C	D	E
理由							

STEP4: 問4のグループの答えと自分の考えを決定する。→話し合った後、プリントに書き込む

問4	グループの答え	A	B	C	D	E
理由						

STEP5: 問5のグループの答えを決定する。→話し合った後、プリントに書き込む

問5	グループの答え	A	B	C	D	E
理由						

※答えは簡潔になるべく短く・分かりやすく書く  
※各自評価・相互評価 ※それぞれがこの時刻に帰席したことを書いてみよう。

自分	( )
1人目:	( )
2人目:	( )
3人目:	( )

話し合いのためのカード（司会用）

◎進め方：先生の指示を全員が聞いて進めること

1. まずはグループ全員の意見をまわしてお互いに読み、プリントに書き込む。  
※自分と違う意見が出た場合にはなぜその答えが出たかを考えておく。
2. 司会は全員の答えを見て、同じ意見の人からその理由を説明してもらう。  
※全員が同じ意見の場合には、ひとり一人理由を順番に聞いていく。
3. 違う意見を出している人からその理由を説明してもらう。
4. 2・3を聞いて新しい意見やさらに反対の意見がある人に説明してもらう。
5. 4を聞いて新しい意見やさらに反対の意見がある人に説明してもらう。
6. 4・5の意見がなければ、どの意見が一番納得できるか意見をだしてもらう。
7. グループの意見をプリントに書き、全員が説明できるようにしておく。

資料3：司会は交替で指導者側で指定して行わせた。

資料2：お互いの解答とグループとしてどの情報を読んだのかを読み取って答えが出たかを記入させる。

## 成 果

生徒は興味を持って PISA の問題を解く活動を行い、授業のねらいである情報の読み取りに意欲的に取り組んだ。初めは必要な情報が読み取れなかったという生徒からも、話し合いをすることで、どの部分をどのように読まなければならないかを理解していった。「いろいろな資料から学習ができて楽しかった」「普段の生活に生かせそうな考え方を理解できた」「みんなにきちんと説明ができて良かった」「君（さん）の説明がわかりやすかった」「資料のどの部分に着目すればよいか分かった」などという感想が寄せられた。

しかし、年度当初から年間指導計画に位置付けていたものではなかったため、指導事項における他の教材とのバランスにおいて、検討の不十分な点があったように思う。言語活動例「イ文章と図表などとの関係を考えながら、説明や記録の文章を読むこと」について、「説明や記録の文章を読む」よりもむしろ「図表」に偏った資料であった点も、今後さらに手を加えていく必要を感じている。PISA の問題は、読解資料の方が難易度が高く感じられたために、今回は数学的資料を教材化してみたが、十分、国語のねらいに迫ることができたと感じている。何回か繰り返した後に、読解資料による教材化を進めていきたいと考えている。

# 聞き取りメモの達人になろう！

～サブテーマ～

## メモの取り方を工夫しよう

川口市立芝園中学校 教諭 岡本久美子



### はじめに

2年生の単元「聞く生活を考えよう」という教材を授業で実施してみると、実際にはメモの取り方の基本が身につけていない生徒が多くいることがわかる。実際に、生徒がとったメモを分析してみると、聞き取ったことをそのまま書いてしまったり、すべてを書き留めようとして大事な情報が抜けてしまっていたり、急いで書くあまり、乱雑すぎてあとで見ても役に立たないメモであったりする。また、定期テストでの聞き取り問題に対しても苦手意識を持っている生徒が全体の3分の2近くいることもわかった。その多くは、問題のスピードにメモが追いつかない、どこが大切な情報なのか要点がわからないなどの理由を挙げていた。小学校でも、メモの取り方の学習は積んできているが、中学校でも改めて学習する機会があれば、「聞く力」はもちろん、聞き手にわかりやすく話す技術の向上にもつながると考え、本単元を設定した。

### ねらい

中学校の「聞く」学習（目的に応じて聞き取る、立場を変えて聞き取るなど）の前段階として、演習問題に取り組むことで、効率よくメモを取るための基本的技術を身につけさせる。

### 実践例

#### (1) 授業の流れ

##### ①メモを取りながら話を聞こう。

用意したプリント

① これから、私の趣味についてお話します。皆さんは、話を聞きながらメモを取って下さい。それでは、始めます。

「私の趣味は、ピアノを弾くことです。ピアノは、姉が習っている姿にあこがれて、小学校1年生の時に習い始めました。習い始めのころは、有名な作曲家の曲を早く弾けるようになりたくて、毎日欠かさず練習をしていました。中学生になってからは、勉強や部活で忙しく、ピアノの練習をする時間が十分にとれません。でも、今は、今度の合唱コンクールでクラスの自由曲の伴奏を任されているので、時間を見つけて一生懸命練習しています。私の将来の夢は、ピアニストになることなので、この夢に向かって、一歩ずつでも近づけるように努力し続けたいと思っています。これで、私の話を終わりにします。」

聞き取りメモの達人になろう！（ ）組（ ）番氏名（ ）

① メモを取りながら話を聞こう。

② 簡潔な表現でメモを取ってみよう。

③ 話の組み立てを意識してメモを取ってみよう。

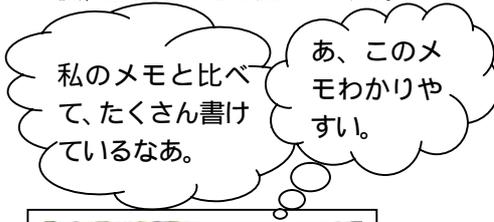
④ 工夫してメモを取ってみよう。

⑤ 今日の学習を生かして上手にメモを取ってみよう。

「よいメモ」とはどんなメモだろう？

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	

その後、互いのメモを比べてみる。



「よいメモ」とはどんなメモが考えよう

- ・簡潔であること
- ・わかりやすいこと
- ・聞き取った内容を、あとで再現できること

もちろん、速さも必要!

そのためには.....



### 2 簡潔な表現でメモを取ってみよう。

「速さ」のために、基本は **単語** で箇条書き

2 これからお話するのは、花子さんの休日の生活の様子です。花子さんの行ったことを、順に一言でメモしてみましょう。それでは始めます。

「花子さんは、その日の朝6時30分に起きました。犬のボチと近所の公園を20分間散歩しました。それから、家に帰り、朝食を食べました。朝食のメニューは、トーストと目玉焼きとオレンジジュースでした。午前10時からお昼までは部屋の掃除をしました。お昼にはチャーハンを作って食べました。午後2時には、近くのスーパーに行って買い物しました。帰ってから、夕方までのんびりと読書を楽しみました。夕食は野菜たっぷりのお鍋を家族で囲みました。10時頃、お風呂に入り、11時には床に就きました。」

(「ラベリング」の練習)

生徒メモ例

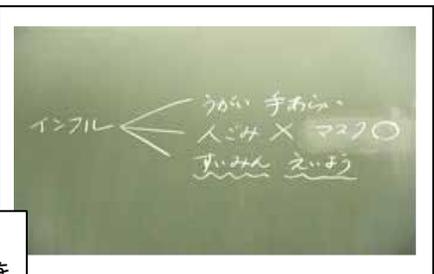
1	6:30起床
2	犬と散歩
3	朝食
4	掃除
5	昼食
6	買い物
7	読書
8	夕食
9	風呂
10	寝る

### 3 話の組み立てを意識してメモを取ってみよう。

3(1) の原稿を生徒に読ませながら、教師が黒板に実際にメモを取って見せる。

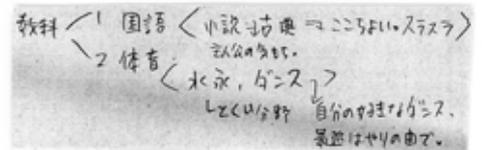
内容によっては、**言葉同士の関係性を示す工夫**(線を引くことやナンバリング)により、わかりやすいメモになることを見せるための実演。その後、3(2)に取り組みせる。

3(1) インフルエンザを予防するために大切なことを3つお話しします。1つ目は、うがい・手洗いを徹底することです。2つ目は、人混みを避けることです。どうしても避けなければならない時には必ずマスクを着用しましょう。3つ目は、十分な睡眠と栄養のある食事をとることです。



3(2) 私の好きな教科についてお話しします。私の好きな教科は、2つあります。それは、国語と体育です。国語の学習の中でも、私が特に面白いと思うものは、小説を読むことと古典の文章を音読することです。小説は、主人公の気持ちを考えながら読んでいると、自分もその話の世界に入っているような気持ちになっておもしろいです。また、古典の文章を音読していると、古文の響きやリズムが心地よく感じられるし、何度も繰り返し音読してすらすら読めたときには、大きな達成感があるからです。体育の授業では、水泳とダンスが特に好きです。水泳は小さい頃からやっていて、得意だからです。ダンスは、自分の好きなダンスグループのように、最近はやりの曲に合わせてリズムカルに体を動かすのがとても楽しいから好きです。

生徒メモ例



書き終えたら互いのメモを交換し、ナンバリングなどの工夫が出来ているかを確認する。また、メモを見ながらスピーチの内容を再現し合ってみる。

**4 省略や記号など、速記のための工夫を取り入れてメモを取ってみよう。**

ある先生が生徒に連絡することを下のよう  
にメモしていました。さて、どんな内容で  
しょうか？あててみましょう。

・保 (昼) 音

・体 4:10 2の1

生徒「わかった！保健委員は昼休みに音楽室集合。  
体育委員は、4:10に2年1組の教室集合ってことだ！」

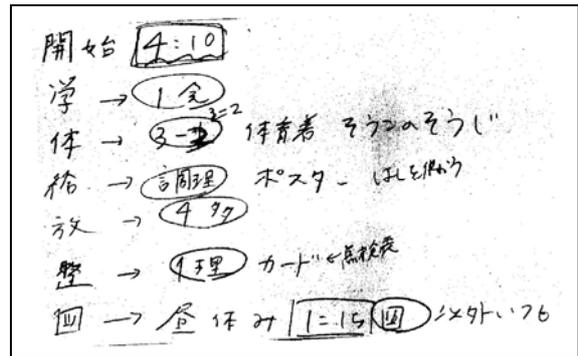
- ・省略するための記号(・×・)などを使う。
- ・傍線を引いたり、囲んだりする。

素早く、簡潔にメモを取るためには自分なりの工夫が大切。

**4** あなたは、学級委員として、担任の先生の代わりに、朝の学活で今日の放課後の委員会活動について連絡することになりました。メモを取りながら、先生の話聞きなさい。今、学んだばかりの記号等をどんどん使ってみましょう。では、始めます。

「えっと、今日の放課後の委員会活動のことなんだけど、あつ、開始時刻は、4時10分厳守ね。それと、いくつか変更があつてね。まず、あなたたち学級委員は、第1会議室に集合。体育委員会は、3年2組。委員会のあとに、体育倉庫の掃除をするから、服装は体育着ね。給食委員会は調理室。「箸を使おう」のポスターを持ってくること。放送委員会は、4階の多目的室。整美委員会は各学級の清掃点検表を持って第1理科室へ。図書委員会だけは、顧問の先生が出張のため、急遽、昼休みに行きます。だから1時15分に図書室に集合ね。今言った委員会以外は、いつも通りの場所です。それじゃあしっかり連絡してね。」

生徒メモ例



メモがさっきより全体的に  
すっきり見えるね。

見ながら、実際に  
連絡してみる。

これを見ながら、  
きちんと連絡できる  
かな？



5W1Hを意識して話を聞くことも大切

物事を相手に伝えるために必要な、情報の基本的要素

いつ

When

だれが(だれを・だれに)

Who

どこで・どこに・どこから

Where

(何が)・何を・何に

What

なぜ

Why

どのように

How

**5 今日学習を生かして、上手にメモを取ってみよう。**

5 あなたは明日の大会について欠席した部員に連絡することになりました。今日の授業で学んだことを意識して、上手にメモを取ってみましょう。では、始めます。

「明日の大会は、芝スポーツセンターで行われます。集合時刻は、朝6時30分、学校の正門に集まって下さい。自転車は、プール横の駐輪場にきちんととめること。出席確認をして、その後すぐに出発します。どうしても体調不良などで、欠席する場合は、学校に朝6時10分までに電話をして下さい。服装ですが、選手は、全員ユニフォームを朝から着てくること。応援の人は全員制服です。持ち物は、ラケット、ゼッケン、シューズ・弁当・水筒です。汗をふくタオルも忘れずにね。雨が降ることも考えて、カッパなどの雨具も必ず持ってきて下さい。1年生は、会場で使う練習用シャトルを忘れずに持ってくる。注意して欲しいことが2つあります。1つ目は、自転車で行くので、交通事故にあわないように十分注意して下さい。特に、道路では、必ず一列になって行くこと。部長が先頭で、3年・2年・1年・副部長の順に並んで行きます。2つ目は、大会中は学校生活と同じなので、不要なものは絶対に持ってこないこと。もちろん携帯電話もダメです。明日は3年生の最後の大会なので、選手は今までの練習のすべてを発揮できるように、また応援するものも、全員が心一つにして頑張らしましょう。」

**生徒メモ例(省略やナンバリングの工夫をしている)**

ミーティングメモ

明日 芝スポ 6時30分 学校 正門  
 自転車 体調 × 6時10分まで(電)

ラケット シューズ 弁当  
 → 利用

シャトル

注 < 1. 道に気を付け、2. 1の順  
 2. 不用物 ×

**(2) 授業後の生徒たちの反応**

- ・文字をわかりやすく短縮して書け、全ての情報をきちんと書きとれてよかった。
- ・記号、印などを有効活用したら、すごく簡単になるので、楽だと思った。私が聞き取りが苦手なのは、やはりメモの取り方の違いかなと思った。今日教わったことを忘れずにテストの時はもちろん普通の生活にも生かしたい。

**ある生徒のメモ(教科書P.31の内容)の比較**

①メモをとりながら話を聞こう  
(先生の話)

まじらせくばる 来月28日  
 雨ok 何かいふーく(お:う)  
 しこい 何時にok 何かいふ  
 う:がやいふ(体操服)  
 老人ホーム利用しい里  
 学校でok 何かいふ  
 欠席 学校でok 何かいふ  
 おいふお茶いふ何かいふ  
 何かいふ何かいふ何かいふ  
 何かいふ何かいふ何かいふ  
 何かいふ何かいふ何かいふ

来週2科おひ  
 2月10日 雨 → 7時止  
 8時始 → 8:30  
 服 → 汗拭き巾着  
 老人ホーム 何かいふの家  
 集合所 利用 何かいふ前  
 何かいふ何かいふ  
 何かいふ → 学校で何かいふ(6:00~8:00)  
 何かいふ何かいふ何かいふ  
 何かいふ → 何かいふ何かいふ  
 何かいふ(何かいふ) 何かいふ何かいふ  
 4:00 何かいふ何かいふ

**前回の授業時のメモ**

聞いたことをすべ書き取ろうとしてしまい、必要のない言葉まで入ってしまっている。

**今回の学習後に、ほぼ同様の内容を聞き取ったメモ**

必要な情報だけを、簡潔に書き留めようとしている。  
 見た目もすっきりしてきた。

**成 果**

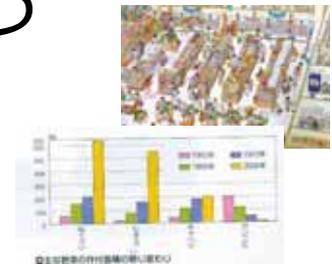
生徒達のとったメモを見てみると、はじめの段階で取ったメモに比べ、かなり手際よく要点をまとめていることがわかる。何よりも、自分たちの実感として、こういう工夫をすれば大丈夫、と意欲的に聞き取ろうとする姿勢を作れたことは、大きな収穫だったと思う。しかし、この授業を実践してみて、メモの学習は、入学時の授業オリエンテーションなどで実施したほうがより効果的であると強く感じた。小学校で学んできた「聞く」学習の復習として、また国語の授業だけでなく、中学校生活の様々な場面で生かせる学習として早い段階でこの授業を行い、生徒たちの「聞く」力をさらに伸ばしていきたいと思う。

# 教科書を効果的に活用して 社会科嫌いをなくそう

～サブテーマ～

## 教科書かんたん活用 3つの方法

川口市立根岸小学校 教諭 尾田 賢一



### はじめに

教科書は、使い方によってはそれだけで効果的に活用することができる。

教科書を使うというと、本文を読み、教師が解説しながらノートにまとめるという流れが思いつく。しかし、そのような指導の流れでは、多くの場合児童は社会科嫌いになってしまう。なぜなら、知的に思考する場面や作業が少ないからである。

教科書は、使い方によっては作業を伴ってそれだけで楽しく授業をすることができる。また、一定のレベルの授業を行えるため、社会科の学力も向上することが期待できる。

ここでは、教科書を活用し、誰でも簡単に行うことのできる3つの方法を紹介する。

### ねらい

教科書を効果的に活用し、作業をともなう3つの展開で授業していくことで、日々の社会科の授業を楽しく、安定して行うことができるようにする。

### 実践例

#### (1) 絵や写真から授業を展開するパターン

##### 絵や写真の読み取りをする

教科書にはたくさんの絵や写真が載っている。特に、単元のはじめの方に掲載されている絵や写真は、その1枚で単元で学ばせたい内容の多くが含まれている。

そのため、その1枚を読み取らせることで、児童からその単元で学ばせたい学習内容の多くを出させることができる。

たとえば、3年生「店の様子を調べよう」のスーパーマーケットの絵がある。

この絵1枚から、「お客さんが買い物をしやすくするためにどのような工夫をしているか」について、たくさんのことを読み取らせることができる。

このような、教科書に載っている絵や写真から読み取りをさせる授業をするときの基本的な発問は次の通りである。

この絵(写真)を見て、「わかったこと」「気がついたこと」「思ったこと」をできるだけたくさんノートに箇条書きしなさい。



教育出版 小学社会3・4上 59ページ

はじめは、「 がいる」「 がある」などの意見が多くです。絵(写真)から読み取れる内容であれば、どのような意見でも認める。そうすることで、児童は意欲的に読み取るようになっていく。

### 読み取りの中から発問をする

しかし、中には「～が多い」「～が広がっている。」「似たような～がある。」「～と～はつながりがある」など読み取ることができる児童も出てくる。これらの読み取りは、多くの場合、単元の中で考えさせたい内容である。

それらの意見のいくつかを教師が取り上げ、さらに発問をする。そのとき児童にとって分からない点が出てくる。そこが調べ学習につながる場所である。教科書や資料集などを使って調べさせていく。

このような一連の流れを作ることで、児童に安定した授業を行うことができる。しかし、毎回この発問を行っていても飽きてしまう。1つの学期に多くても1,2回程度が適切であると考えられる。

## (2) グラフから授業を展開するパターン

教科書には、たくさんのグラフが登場する。まずはグラフから扱う方法について紹介する。

### グラフを扱う場合の基本条件を確認する

社会科教科書(教育出版)5年上36ページ「高地の人たちの暮らし」を例に挙げる。

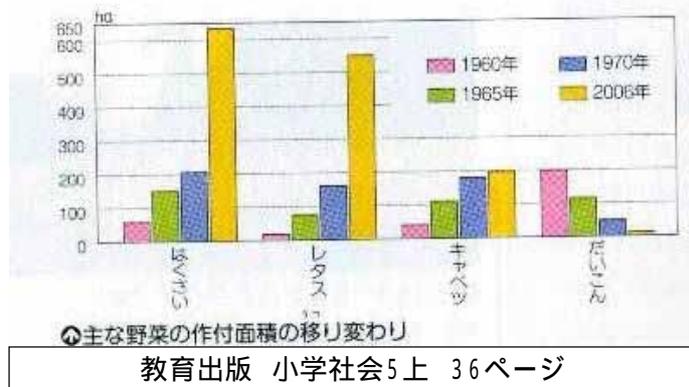
ここでは、「主な野菜の作付面積の移り変わり」の棒グラフが出ている。

このグラフから授業をはじめていく。

どのグラフでも、扱う場合の基本発問は決まっている。

最初に聞くのが3つ。次が2つ。最後に聞くのが5つだ。

最初の3つ。



タイトル	出典	年度
------	----	----

次の2つ。

縦軸	横軸
----	----

それぞれが何を表しているのかを聞く。折れ線グラフなのに目盛りが均等でないものもある。

学習の苦手な児童は、案外このようなところできていないことが多い。

最後に聞く5つはグラフの傾向である。

上がっている	下がっている	急に上がっている	急に下がっている	変化なし
--------	--------	----------	----------	------

このようなことを読み取らせることが、グラフを扱った授業においては必要不可欠である。なぜなら、グラフの変化は何らかの因果関係を含んでいるからだ。

### グラフから考えられることを教科書の記述から探させる

グラフが変化しているということは、かならず意味がある。その部分が、本時で身につけさせたい学習内容であることが多い。そして、その内容はほとんどの場合本文に記述されている。

ここでは、はくさいとレタスの作付面積が急に増えている。逆に、大根は下がっている。

このように、急激に上がっていたり下がっている様子が読み取れた場合は、次のように発問する。

急激に上がっている原因を教科書の中から探して、線を引きなさい。

すると、教科書本文の中に、次のような記述を見つけることができる。

「初めは、だいこんやじゃがいも、そばなどをつくっていましたが、やがて夏でもすずしい気候を生かして、キャベツ、はくさい、レタスなどをつくり始めました。」

このように、グラフを読み取り、その原因を調べるという展開にすると、単に教科書を読み取ってまとめるよりも、児童は意欲的に学習に取り組むことができる。

### (3) 学習問題から入るパターン

教科書のページには、毎時間の学習問題が載っている。

本来であれば、単元の第1時を使って学習問題を設定した上で、各時の学習問題を作っていく流れが一般的であろう。

しかし、社会科の指導に苦手意識をもつ先生や、経験の浅い先生にとっては、そもそも学習問題をどう作ったらよいのかで迷う方も多いと聞く。

そのような時は、教科書に載っている学習問題をそのまま使って授業をしていく方が安定した授業になることが多い。

教科書に出されている学習問題のほとんどは「どのように」「どのような」という言葉を使っている。

「聖徳太子はどのような国づくりを目指したのだろう。」

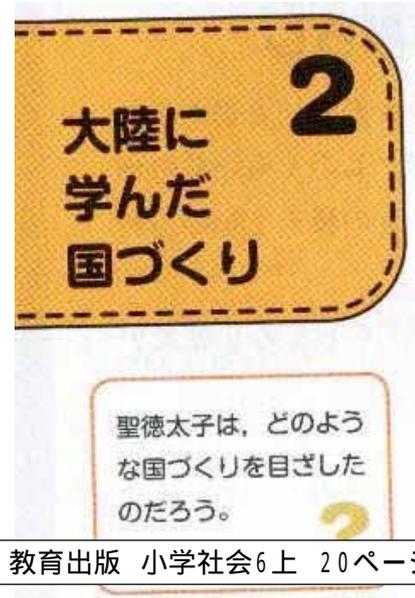
「武士はどのようにして力をもつようになったのだろう。」

「どのように」「どのような」というのは、様子を聞いている言葉である。

「はじめにこうして、次にこうして、最後にこうした」という因果関係をつかめれば、学習問題への答えとしてふさわしいものになる。それは教科書の本文に書かれている。

学年のはじめの方の単元で児童と一緒に学習問題からまとめる方法を例示すると、その後はやり方が分かっているので学習問題を示すだけで児童が調べる活動に入ることができる。

ちなみに、「どのように」「どのような」が一般的であるが、単元や本時のねらいによっては、変形させて追究させることもある。



どのように、どのような	調べて理解する、資料活用力を育てる。
なぜ、どうして	意義、背景を探る、思考力を育てる。
どうしたらよいか、どっちが	よりよい解決策を探る、判断力を育てる。

## 成果とまとめ

毎回の社会科授業をどうしたらいいのかという悩みを持っている方は多い。

私も以前はそうであった。ただ教科書を読んで、その内容をまとめてばかりの毎回毎回同じような授業で、児童が飽きていることが分かるような授業だった。社会科が嫌いな子も多かったと思う。

しかし、上記の3つの方法を取り入れ始めてからは、児童が積極的に学習に参加するようになってきた。社会が好きだと言い、授業が始まる前から地図帳を見たり、教科書を見て調べている姿も見られるようになってきた。写真やグラフを読み取ったり、理由が書かれているところを探して線を引いたりする作業をとまなうことで、意欲的に学習させることができたのは、活動することや作業することが明確だったためではないかと考える。

以上の3つの方法は、もちろんベストの方法ではない。ここに紹介したのはあくまでも一例である。毎回このような形で進めていても飽きてしまう。しかし、社会科を教えることに苦手意識をもっている先生方にとっては参考になる方法ではないかと考える。

### 【引用文献】

- ・谷和樹「谷和樹著作集 No.3 教材研究にこだわる社会科授業の組み立て方」(明治図書)

# 楽しく くり返して学習し 知識を増やそう！

～サブテーマ～

## 学ぶ意欲を高める授業の導入の工夫

川口市立飯仲小学校 教諭 荒井倫彦



### はじめに

新学習指導要領では、社会科の目標が以下のように書かれている。

社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

上記の目標は、この教科の役割や性格を明確にし、簡潔に表現しているものである。特に、「我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て」の部分に着目すると、この部分は社会科のねらいの特色を示すものである。児童にとって、より親しみやすい活動を考え、児童の「学欲」を刺激することでできれば、それが学力向上につながり、目標を達成する近道となるのではないかと考え、実践してきた。

### ねらい

高学年になり、地理や歴史の学習が始まるが、日本の国や近代史へと学習がすすむにつれて苦手意識をもつ児童が多い。地名や国名がたくさん出てきて、覚えることが多くなったり、歴史上の人物が多数出てくることが、歴史事象が複雑に関わり合っていることが、苦手意識をもってしまう要因だと考えられる。そこで、授業の導入場面を使い、児童が楽しみながら知識を定着できるような取り組みを考えた。

### 実践例

#### (1)地図帳を使った取り組み

「マップタイム」(授業開始時刻からの3分間)

ねらい：地図帳に親しむ姿勢を身につけ、  
知識を増やし、表現する能力を高める。

業開始の合図とともに、各自が地図帳を開く。  
児童一人一人が、めあてを持ち、該当ページを開いて  
学習する。

毎時間、めあてを変えて良い。隣の児童等とし  
ゃべらず、集中して取り組む等の約束を決め、  
年度当初に確認しておく。



短い時間  
なので、集中  
するぞ。

#### めあての例

- ・ 都道府県名と県庁所在地を覚えたい。(P.1 P.2)
- ・ 日本とそのまわりのようすを調べたい。日本の端は？(P.12)
- ・ 北海道の珍しい地名を調べたい。(P.43.44)
- ・ 日本と世界の川・山・湖を比べたい。(P.62)
- ・ 世界の国々と国旗を調べたい。(P.74～P.76)

1～2分後、児童のようすをみて、指名し、今日はどんなめあてをたて、何ページを見ていたのか、質問する。その児童の発言により、ページを変える他の児童もいるが、許容する。本時の学習活動で、出てくる地名や情報などがあれば紹介し、児童の意欲、関心を高め、本時の学習内容に入る。



本学級では、戦国時代以降の歴史学習を行っている時期に、昔の地名が覚えられるように、マップタイムを設定した。児童は、自分が住んでいる地域(武蔵国)から範囲を広げ、覚えていった。

学習進度、学級の様子等を考慮しながら、取組方法をアレンジして実践することができる。

覚えた地名には、印をつけておこう。

### 地図帳からの抜粋画像



地図帳に触れる時間を毎日とることで、児童にとって地図帳が身近なものになった。また、社会科の時間以外にも地図帳を開き、場所を確認する児童が増えてきた。児童は、地図帳が地図以外の情報も豊富で、とても役立つ資料だということを認識できたようだ。



(2) 歴史上の人物カードを使った取り組み

「フラッシュタイム(人物バージョン)」

ねらい: 人物の写真から人物名を考え、ヒントをもとに主な事柄を確認する。個人から、グループで活動することにより、交流の場を増やし、クラス全体で学ぶ意欲を高める。

「人物クイズ」(授業開始時刻から5分程度)

既習の内容で、出てきた人物のカードを用意する。

まず、全体で人物名を確認する。「フラッシュカード」形式

教師が指名したグループで一人ずつ、答えていく。

班員同士で話し合い、わかりやすいものを他の人にまわしてあげても良い。

班員全員で全て答えることができれば、授業で出てきた、簡単な事柄(歴史的事象)も答えていく。



小学校社会科指導要領解説の内容の取扱いには、42名の人物が掲げられているが、必要に応じて新たなカードを作ったり、省いたりする。

カードは、今年度購入した資料集をもとに作成した。

【成果】

毎時間取り組むことにより、児童は少しずつ知識を定着させ、自信をもつことができてきた。「マップタイム」では、毎時間自分でめあてを決めることで、主体的に活動する意識が高まり、授業中の活動も意欲的になった。「フラッシュタイム(人物バージョン)」では、人物を一人ずつ覚えていた段階をこえ、グループごと(時代ごと)に覚えたり、容姿でグループ分けをしたり、各自が工夫して覚えるようになった。また、社会科の学習中以外でも、問題を出し合う児童が増え、交流する場面が多くなった。

児童の学力向上を目指し、まずは楽しく学習する意識を育てるために、日々の授業の中でひと工夫していくことが大切であると思う。

# 情報通信ネットワークの活用

～サブテーマ～

## インターネットビデオ電話の授業実践と可能性

川口市立領家中学校教諭 稲村 秀治

### はじめに

川口市内の小中学校教室にはRAN端子が整備され、教室においてパソコンをインターネットに接続できる環境がある。情報通信ネットワークの積極的活用を念頭に「インターネットビデオ電話」を活用した実践を報告したい。工夫次第では、遠隔地とのインターネットビデオ電話での生徒同士の意見交換や議論などの交流もできる。児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成と言語活動の充実が課題として取り上げられている中で、ICTを活用しながら、自分の考えや集団の考えを広め、深めることにもつながると考えている。

### ねらい

教室に整備された大型テレビの活用を工夫することで、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成と言語活動の更なる充実を図る。

### 実践例

#### 1 「スカイプ」インターネットビデオ電話の準備

(標準スカイプのインターネットビデオ電話は「無料」、オプションは有料)

個人で準備するもの

パソコン インターネット接続環境

Web カメラ・・・資料1

マイク付きヘッドホン・・・資料2 マイクとスピーカーが別でも可能)

アプリケーションをダウンロード

インターネットのスカイプのサイトから、スカイプのアプリケーション(スカイプするためのソフト)をパソコンにインストール(取り込み)し、準備する(無料)。必要情報を入力し、自分のスカイプ名(自分のIDのようなもの)を作成しやり取りする。

スカイプホームページ資料3 <http://www.skype.com/intl/ja/home/>

その他 インターネットビデオ電話アプリケーションの紹介 Meeting Plaza テレビ会議システムホームページ(有料)

<http://www.meetingplaza.com/index-j.html>

スカイプ環境が整っている人のスカイプ名を入力し、コンタクトをとり、インターネットビデオ電話をする。

資料1



資料2



資料3



2 歴史的分野の実践 Meeting Plaza テレビ会議システムを活用

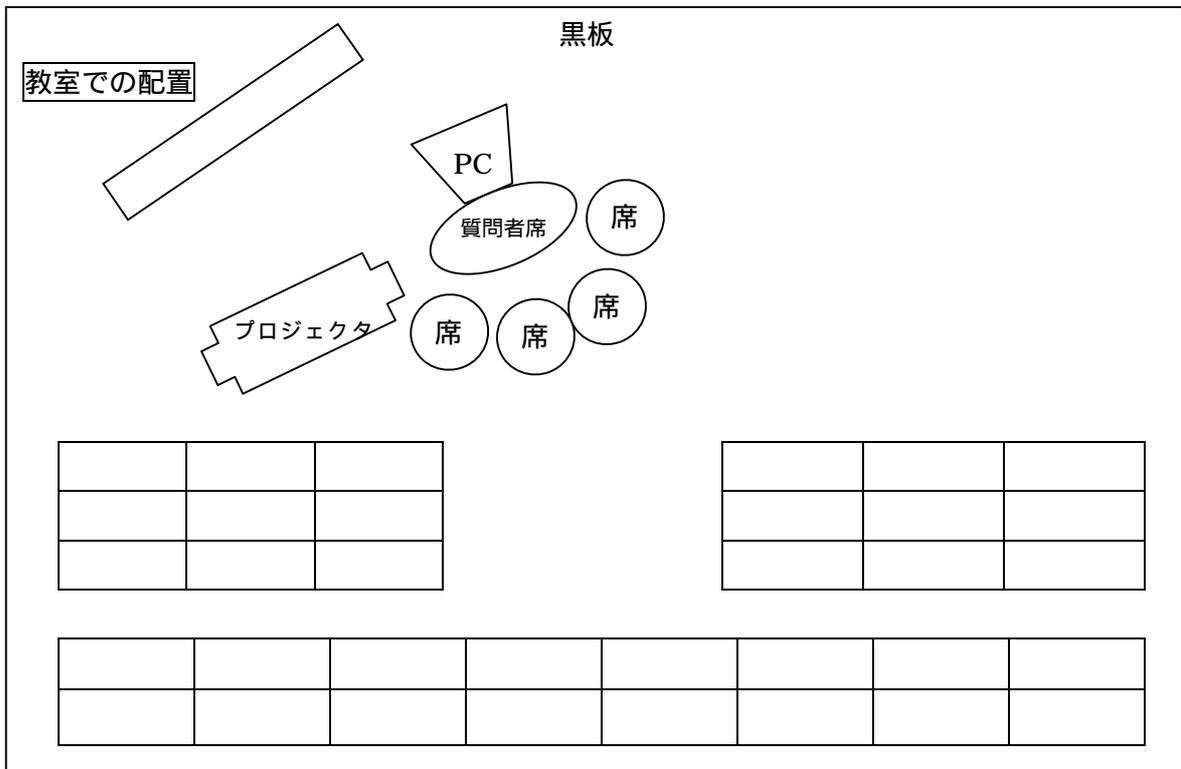
扱った単元名 第二次世界大戦とアジア

長崎の国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館にいらっしゃる被爆された方から、被爆の体験談をお聞きし、学習内容を深め、戦争・原爆の恐ろしさと平和の尊さを生徒たちに伝えていただいた。

講話者(ゲストティーチャー)について

講話者 [丸田 和男さん(77歳) 被爆時13歳]

当時県立瓊浦中学校の1年生(13歳)。爆心地から1.3kmの銭座町1丁目の自宅で被爆。倒壊した家の下敷きとなり、重傷を負いながらも助かる。母死亡。中学校の同期生300人中約100人が原爆の犠牲となった。現在も後頭部から背中にかけて、約50箇所のガラス傷が残る。



学習活動		
所要時間	区分	話し手
5分	導入、あいさつ	職員 生徒
20分	パワーポイント・スライド・講話	講話者 生徒
20分	質問/感想	生徒 講話者
5分	まとめ	講話者、職員、先生 生徒





### 3 活用について

今回の「スカイプ」インターネットビデオ電話の活用では、遠隔地にいるゲストティーチャーの講話という形を考えたが、外部との意見交換・討論・情報交換・発表や日本人学校との連携など、活用方法はねらいによって様々考えることができる。

#### 地理的分野

**東北地方の学習**：生活・文化を中核とした学習で、日本海側の東北地方の学校とインターネットビデオ電話でつなぎ、日本海側の東北地方と太平洋側の関東地方の冬を比較し、気候の違いを発表し合って学習を深める。

#### 歴史的分野

**川口市立文化財センターとの連携**：出前授業もお願いできるが、インターネットビデオ電話で地域の歴史を解説していただいたり、資料提示や説明を授業に絡めてお願いし、学習を深める。

#### 公民的分野

**他校との意見交換**：地球環境・資源・エネルギー問題などを扱う授業で、「持続可能な社会を形成するには？」などのテーマ学習を他校と計画的に進め、インターネットビデオ電話で発表会を行い、学習内容を深める。

### 成果とまとめ

インターネットビデオ電話の長所は、リアルタイムで顔を見ながら遠隔地と情報をやり取りできることにある。様々な事情により来校していただけない方と、いわば直接のやり取りができるので、授業の活性化につなげることができる。また、ゲストの選定の幅が大きく広がる利点も魅力である。しかし、授業の流れを相手側と良く打ち合わせをし、こちらのねらいを伝えて共有していないと、一方的な展開で終わってしまうこともあるため、事前の通信リハーサルや打ち合わせが重要である。

## 社会 中学校歴史分野(代表的登場人物の再確認)

# 歴史上の先人たちを賞賛し、 感謝状を贈ろう！

～サブテーマ～

## ライフスキル(生きる力&技)学習内容を活用した実践

川口市立北中学校 教諭 松尾和朋

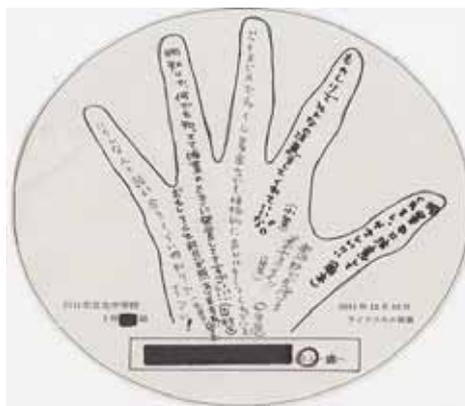


### はじめに

中学校の社会科は1、2年生を中心に地理的分野・歴史的分野を学習するが、関心や理解度は歴史的分野の方が高いように毎年感じる。それは勿論、教師側の指導法にも課題はあると思うが、地理の内容がやや単発的な面をもっているのに対して、歴史は流れ、つまり頭の中で物語(ストーリー)的にイメージしながら学習できるという点がポイントであると思う。勿論、地理の方が好きという生徒もいるが、小学校で学習した地理の内容と中学校の内容とでは広さ・具体性に大きな幅がある。その点、歴史は全時代とまではいかないが、小学校の授業でもほぼポイントになる時代は具体的に学習しているため、関心・意欲の高さを授業中に感じる事が多い。そこで、今回は歴史授業の単元毎のまとめ・復習作業の1つとして、プリント作業や問題集作業以外に私が「生きる力・技」学習として実践している方法の1つをここに紹介したい。

### ねらい

本校では「総合的な学習の時間」に「ライフスキル学習」を組み入れている。ライフスキル、つまり「生きていくための力」を段階的に学び将来に役立てようということにねらいがある。この学習単元の1つに、「本当の自信をつけるためには、自分や他の人を大切に認め合う(他の人の好ましい行動や性質に対して賞賛の気持ちを表す)」がある。授業で習う人物が歴史上に名を残す程の実績を収めたことは事実で賞賛できる一方、批判される面もあったことも見逃せない。しかし、この授業はあくまでも相手を賞賛することが基本。右の写真が「総合的な学習の時間」に作成した生徒作品である。これをもとに社会科の授業用に改良し実践してみた。



## 実践例

### 1, 授業隊形の指示と作業範囲(時代)の指示

《授業隊形》 男女混合の学習班(4~5人)

《作業範囲》 飛鳥時代~戦国時代

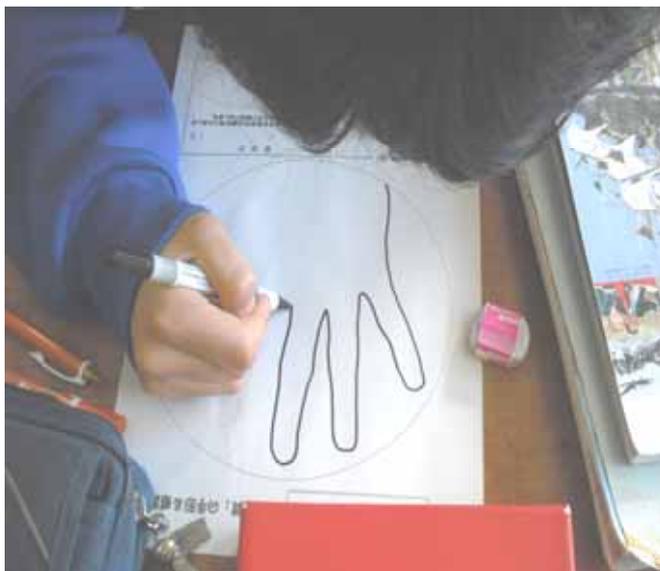
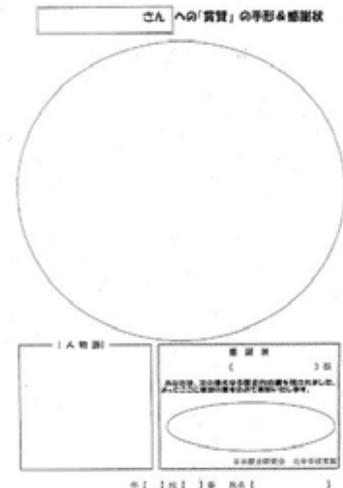
### 2, 資料探し(事前に宿題として)と作業用紙の配布

教科書、資料集、授業プリントから選択  
(小学校で使用した資料集や家にある資料も可)

肖像画(似顔絵)資料がある人物を選択

### 3, 作業の手順と注意事項

- ① 配布した用紙に、「選択した人物名」および「自分の氏名」を記入。(黒ペンで清書)
- ② 用紙に各自が、「自分の開いた手形」を鉛筆で薄く描く。(5本指全部が入ること)  
手を開いた5本指を描く理由は、選択した人物の「賞賛できる特徴」を必ず「5つ」見つけるというねらいからである。
- ③ 手形の輪郭を「黒ペンで太く」清書し、強調する。(教師が巡回し、助言)



④ 全員が③まで終えた段階で一旦作業を中断し、後半の作業の諸注意を説明。

「手形」に「賞賛の言葉」を記入する時の「2つの約束事」

☞ 「曖昧な言葉」ではなく、「具体的かつ明確な言葉」で表現すること。

《例》 いつも自分に優しくしてくれる友達に対して

- ・ (×) 君は、優しいね!
- ・ ( ) 君はいつも快く友達の悩み事に相談にのってくれて優しいね!

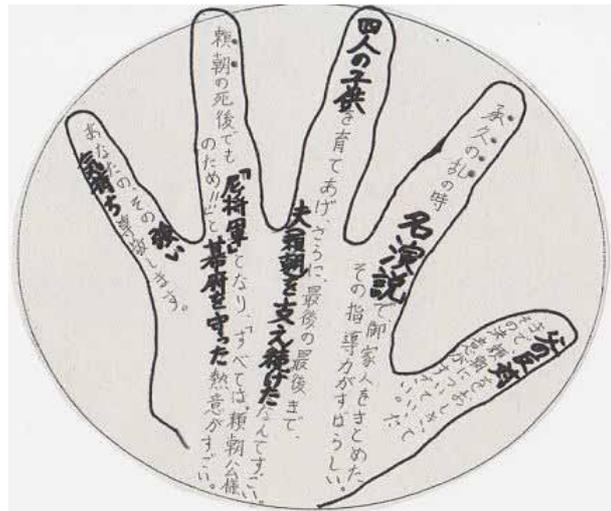
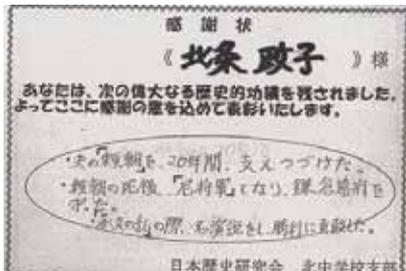
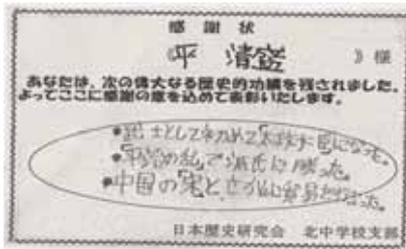
☞ 必ずその人物の特徴を5つ見つけ、指それぞれに1つだけ記入すること。

特に強調したい特徴(仕事・性格など)は、太文字で表現すると良い。

「感謝状」には、選んだ人物の実績・作品・身分等を表現。(簡条書きで可)

《例》 聖徳太子・・・推古天皇の摂政として活躍、冠位十二階の制定  
十七の憲法を制定、小野妹子らを遣隋使に派遣等

⑤ 「作業再開」⇒⇒「完成」⇒⇒「班内発表会」⇒⇒教室・廊下に「掲示」



## 成果とまとめ

年間指導計画に沿って授業を進めるにあたり、毎年学校諸行事や時間割り変更等の面から頭を抱えてしまうことがあるが、その中で定期的に復習の時間を確保することも大切であるとする。そこで、この授業は復習・確認時間確保の意味で実践している。実践当初は、大半の生徒が教科書内の代表的な人物を扱う傾向にあったが、次第に教科書では扱わない「縁の下」の力持的存在の人物を取り上げる生徒も増え、その完成作品の内容に改めて教える側が大変勉強させられることも多い。本校では他教科でもこの指導法を始めた先生もいる。この実践は小学校でも十分に活用でき、この生徒作品は教室や廊下の掲示物として活かすこともできると考える。

# 児童の「表現力」が高まる授業 を目指して

～サブテーマ～

## 「表現力とは何か」をとらえた 5年「平均」の授業づくり

川口市立舟戸小学校 教諭 高橋 涼子



### はじめに

「目の前にいる子ども達の“表現力”が足りない。」と感じている先生方は少なくないと思います。では、表現力とは何なのでしょう。そして、表現力がある子どもの姿とはどんな姿なのでしょう。そこで私は、表現力を育て高めるために、表現力をしっかりととらえる必要があるのではないかと考えました。ここでは、「5年比べ方を考えよう(1)」の平均の授業実践を提示させていただきますので、参考にしてください。

### 「表現力」ってなあに？

まず、“表現力が足りない”とは

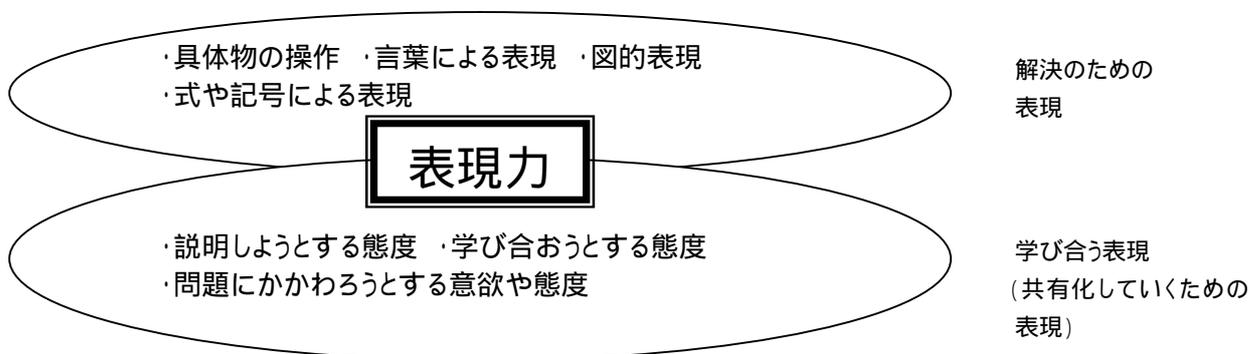
- ・図にかいたり、具体物を操作したりして考えるのが苦手(作図力、思考力の不足)
  - ・聞かれたことに答えられない(説明する力の不足)
  - ・発表場面で意見が出ない(学び合おうとする態度の不足)
- の3つの不足を指していることが多いと思います。つまり、表現力がある子どもの姿とは

自分の考えを様々な方法で表現豊かに発表する子ども

であると考えました。

算数科における育てたい「表現力」は以下の2つに大きく分けられます。

具体物を操作したり、絵・図・表・グラフ・言葉・式などを用いたりして、自分の考えを表現する力  
友達に説明したり、様々な考え方を出し合ったりすることで、共有化し、互いに学び合っていく力  
この2つの力が合い重なって、初めて子どもたちの表現力は豊かになっていくと考えました。



### 実践例

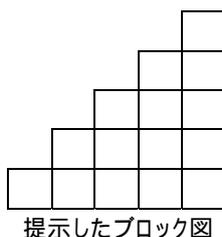
操作的活動を行う(立体を使った高さ合わせ)

同じ高さにするためには、どうしたらよいだろう？

児童に一辺が2cmの立方体を配り、黒板に提示した、ブロックを階段状に並べた図と同じ形を作らせ、どうすれば同じ高さになるのかを聞きました。「多い所から移動すればよい」「全部集めて等しく分

ける」などの見通しをもち、児童に、実際に立方体を使って高さ合わせに取り組みせました。直感的に分かったものの、実際に動かして立方体の高さが同じになったことを視覚的に確認し、体験したことの気付きをノートに書かせて発表させました。

いろいろな大きさを等しい大きさにすることを、「ならず」ということを伝え、全部の数 15 を 5 つに等しく分け直すと 1 つ分の数が求められることに気づかせました。子ども達は、「ならず」の意味を理解し、量でも同じ考え方でできそうだと方向性をもつことができました。



本時の問題と出会い、各自で考える

みんなが平等にジュースを飲むには、1人分はどれだけになるでしょう。

あ 210mL

い 200mL

う 250mL



ノートに表現する際には、友達に理解してもらうために分かりやすい図や言葉、式を書き、友達に分かるように説明しようと意識付けを図りました。自力解決後は、4, 5人のグループで話し合わせました。自分が表現したノートを見せ合い、説明させました。また、お互いの説明が早く終わったグループには疑問を出させました。



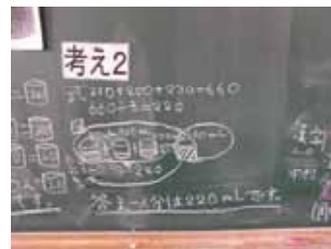
グループでの話し合いの様子

全体で話し合う

図や言葉、式を使って、友達にも分かるように説明しよう。

ここでは、代表の児童の考えを2つ取り上げ、表現されたものを見ることで、内容の確認を重視しました。代表の児童は板書のみを行い、同じ考えをもった別の児童に説明させました。更に、他の児童に言いかえさせたり、補足説明させたりすることにより共有化を図りました。本授業では、はじめに3つとも200mLにして、残りの60mLを3等分する考え方と、3つの総量660mLを3つに等しく分け直す考えが出され、どちらも1人分のジュースの量が220mLになることを確認しました。児童は、ならした量は合計を求めて、それを個数でわれば求められることを見出しました。

その後、平均の定義と  
「平均 = 合計 ÷ 個数」  
「 $(210 + 200 + 250) \div 3 = 220$ 」  
で求めることができることを全体で確認しました。



学習のまとめをする

本時は「平均」を学習してきたことを振り返らせ、学習感想を書かせました。児童が書いた学習感想の一部です。

- ・最初は難しそうだったけれど、ブロックを使ってやったら、ちょっとかんたんなと思いました。
- ・いろいろな考えがでたのがおもしろかった。友達の考えを説明するのもよい経験だった。またみんなで話し合いたい。
- ・考えを発表して、みんなに分かってもらえてよかった。

## ま と め

- ！表現力を高めるポイント！（1）子どもたちに表現したいと思わせる場を設定する。  
（2）友達に理解してもらうために、相手を意識して図や言葉をかかせる。

上記のポイントだけでなく、発表が苦手な児童には、教師がノートに表現されていることを把握し、授業に取り入れていくことも肝要です。そして、「共に学び合える」学級の雰囲気づくりが、子どもたちの表現力を高める授業づくりの土台にあることも忘れてはならないと思います。

# 教えて考えさせる授業展開の工夫

～サブテーマ～

## 学習内容の確実な定着に向けて

川口市立芝中央小学校 教諭 高橋 長



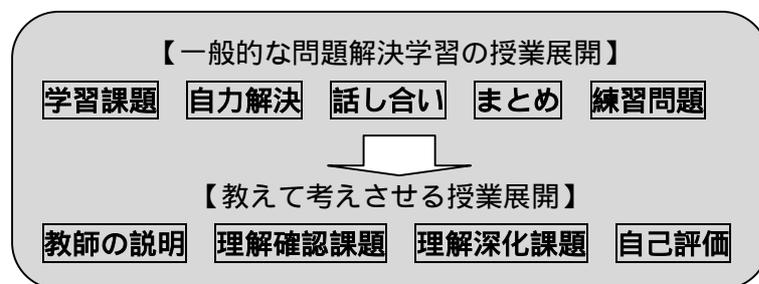
### はじめに

小学校では、新学習指導要領が全面実施されました。算数科では、算数的活動を充実し、数量や図形について実感的に理解し豊かな感覚を育てながら、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるとともに、数学的な思考力・判断力・表現力を高めることが求められています。そこで、児童一人一人に学習内容の確実な定着を図ることに重点をおき、「教えて考えさせる授業展開」を実践していきました。

### ねらい

「教えて考えさせる授業」は、子どもたちにより効果的に学習内容を確実に身に付けさせることをねらいとしています。既習を生かして未習に取り組む一般的な問題解決学習と展開が異なり、未習内容は教師から説明して教えます。学習内容を理解できたかを確認する課題に取り組み、さらに理解を深める課題にチャレンジする授業展開となっています。

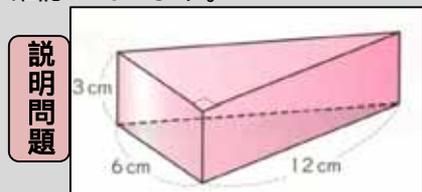
以下、この授業展開で重視すべき教師の説明、理解確認課題、理解深化課題を中心に実践例を紹介します。



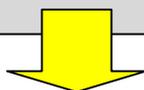
### 実践例

#### (1) 教師の説明

『教師の説明』とは、「教えて考えさせる授業」の“教える”場面です。教えると言っても問題の解き方や公式を一方的に教え込むものではありません。この時間の学習内容は「角柱の体積 = 底面積 × 高さ」でした。中の写真は、三角柱の具体物を示し児童と対話しながら、底面積をクラス全体で確認しています。



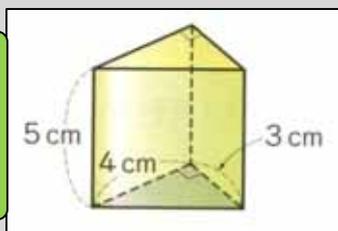
右上の写真は、「三角柱の体積 = 四角柱の体積 ÷ 2」であることをもとに「三角柱の体積 = 底面積 × 高さ」になることを受容学習する場面です。受容学習というと「受け身の学習」ととらえられがちですが、自分で発見したことではなく、**他者から知識を学ぶ能動的な学習のこと**です。児童に身に付けさせたい学習内容は教師から共通して教えます。思考力・判断力・表現力の土台となる知識基盤を与えることにより、より有効な問題解決や話し合い、協同解決につなげていくのです。



## (2)理解確認課題

『理解確認課題』は、教科書や教師の説明したことが理解できているかを確認する場面です。この場面も「教えて考えさせる授業」の“教える”場面に含まれます。ここでは、教師が説明した問題と似たような問題を扱います。教師から教わったことを生かして自力解決し、友だちに説明する活動を設定します。基本的には教科書の練習問題を行います。

理解確認問題



説明活動



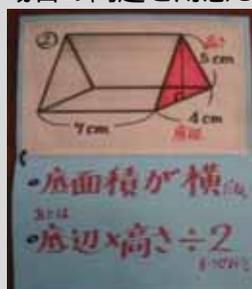
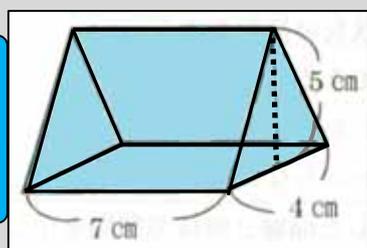
理解の確認

教師が教えた内容を本当に理解しているか友だちに説明することにより、児童一人一人が確認していきます。中の写真は、自力解決した問題をペアで互いに説明している場面です。「底面積は、 $3 \times 4 \div 2 = 6$ で高さをかけると…」などと交代しながら説明をしています。相互の説明活動により、児童一人ひとりが理解できたかに気付くことができ、また、教師の説明が本当に通じたかどうかも理解確認で行っていきます。また、右上の写真は児童の理解状況を挙手でモニタリングしています。理解状況を子どもに自己判断させるとともに教師が児童の理解状況を把握していきます。

## (3)理解深化課題

『理解深化課題』は、「教えて考えさせる授業」の“考えさせる”場面です。児童が誤解しそうな問題や発展的な課題など、子どもたちにとってを考えがいのある問題を用意します。今回は、底面積を間違えそうな問題や底面積が台形の場合の問題を用意しました。

理解深化問題



ヒントカード



ヒントを見て



友達に聞いて

また、『理解深化課題』では児童の理解状況や進行状況も異なってきます。そこで、児童一人一人に解決方法「自力で解く」、「ヒントを見て解く」、「友達に聞いて解く」を選択させ、問題解決を行いました。上の写真は、ヒントを見て解く児童と友達に聞いて解く児童の様子で、多様な学習形態が可能となります。

## 成果

教えて考えさせる授業では、未習の学習内容を共通に児童に理解させることにより、個々の児童が同じ土俵に立って問題解決を行うことができるようになりました。また、理解確認課題に取り組ませることにより、自ら自力解決に取り組んだり自信をもって友達に説明したりする表現活動が可能となりました。さらに、子どもたちの思考を促す理解深化課題を用意することで、意欲的に問題解決に取り組む児童が増え、より充実した話し合いや協同解決につながっています。児童の学習内容の理解度に差があるとき、少人数指導をするとき、もう一度、授業構成や学習課題を見直してみてください。

<参考文献> 「教えて考えさせる授業」を創る 市川伸一 図書文化

# 個に応じた学習指導の工夫

～サブテーマ～

一人一人の習熟度に応じた  
ワークシートの活用

川口市立東中学校 教諭 大山 孝一



## はじめに

平成24年度から全面実施される学習指導要領では、次の5点がキーワードとして挙げられています。基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力などの育成、主体的に取り組む態度の育成、学び直しの機会の設定、数学的活動の一層の充実です。しかし日々の授業では、学習意欲が高く向上心に燃えている生徒もいれば、数学への興味をもてず意欲の続かない生徒もいます。また、課題解決が早く時間をもてあましてしまう生徒もいれば、内容を理解できず遅々として進まない生徒もいます。私たち教師は、上記のキーワードを意識しながら、授業の中で個々の生徒に応じた手立てを講じていかなければいけません。そこで個に応じた学習指導の工夫として、ワークシートの活用が効果的であると考えました。

## ねらい

一般的に、授業は「導入」・「展開」・「まとめ」の3段階に分けることができます。最初の導入のときには、全員が何らかの形で参加できるワークシート、つまり、学力差のある生徒が参加できるワークシートが望ましいと考えます。また、展開(自力解決)のときには、学力の高い生徒用のワークシートと、遅れ気味の生徒を支援できるようなワークシートが望ましいと考えます。以下、その実践例を示します。

## 実践例

### (1)全員が参加できるワークシート

授業の導入時などは、習熟度に違いのある生徒全員が一斉に参加できるシートが望ましいと思います。

次の点に注意して作成します。

ワークシートの留意点

多様な発想が考えられるシート

操作活動が加味されたシート

全員が参加できるシート

習熟度に対応できるシート

身の回りにあり興味を持てるシート

右のプリントは、1年「反比例」の導入の時に使ったプリントです。全部ではなくても、全員が複数の長方形を見つけられました。余裕のある生徒は小数の範囲まで考えました。

数学学習プリント

年 組 名 \_\_\_\_\_ 氏 名 \_\_\_\_\_

面積が  $12 \text{ cm}^2$  の長方形を作ろう。  
1ますを  $1 \text{ cm}$  として作ってください。

作った長方形の縦の長さ と 横の長さ

縦 _____	横 _____	縦 _____	横 _____
縦 _____	横 _____	縦 _____	横 _____
縦 _____	横 _____	縦 _____	横 _____

(2)遅れ気味の生徒へのワークシート

授業の展開（自力解決）の場面では、どうしても自力解決が困難な生徒が出てきます。このような生徒に対し、次の点のいずれかに配慮したシートを作成します。

- ワークシートの留意点**
- 課題を穴埋めで解決できるシート
  - ヒントを示したシート・補助カード
  - 使用する既習事項を示したシート
  - 解き方の参考を例示したシート
  - 段階的に考えて進められるシート

右のプリントは、1年「比例」の「比例式を求める」という題材のときに使用したプリントです。y = a の式に値を代入し計算で求めることに抵抗がある生徒には、表で考えさせると、数字が単純に3倍だから「y = 3x」という式を容易に求めることができました。ただし、前時の授業で、表から式の学習をしておくことが望ましいと思います。

x		4	
y		12	

(yはxの3倍だから  $y = 3x$ ) という学習は、生徒には受け入れやすい考え方でした。

数学 学習プリント

年 組 名

問 yはxに比例し、  
x=4の時、y=12  
yをxの式で表せ。

この問題は、表で考えると  
前時の授業を利用できます

【前時の授業】

x | 4 | y  
| 12 |

yはxの何倍ですか?  
.....

式で表すと? .....

問1 yはxに比例します。  
x=5の時、y=3と  
なります。  
yをxの式で表しなさい。

x | 5 | y  
| 3 |

.....

式で表すと? .....

問2 yはxに比例します。  
x=2の時、y=-8  
となります。  
yをxの式で表しなさい。

x | 2 | y  
| -8 |

.....

式で表すと? .....

問3 yはxに比例します。  
x=5の時、y=-4と  
なります。  
yをxの式で表しなさい。

x | 5 | y  
| -4 |

.....

式で表すと? .....

(3)学力の高い(解決の早い)生徒へのワークシート

授業を進めていくと、時間が余り退屈している生徒や簡単すぎてつまらないという表情を示す生徒もいます。このような生徒に対し、次の点のいずれかに配慮をしたシートを作成します。

- ワークシートの留意点**
- 問題数を多くしたシート
  - 難しい課題を追加したシート
  - 発展的に考えられるシート
  - 一般化を考えさせるシート
  - 式や問題を考えさせるシート

右のプリントは、1年「比例」の「グラフをかこう」という題材のときに使ったプリントです。比例のグラフのかき方を学習したあと、定着をはかるための問題を扱っています。比例定数の数字によっては「かきやすい」と「かきにくい」ものがあり、3/7を比例定数として使って求めようとした生徒は解決に苦勞をしていました。

結局その生徒は、マスを枠外に伸ばし、(7,3)の座標をとることにより、満足感を感じていました。

数学 学習プリント

年 組 名

問2 比例定数を自分で設定し、  
グラフをかいてみよう

				4	
				2	
4	2	0	2	4	
				2	
				4	

①..... ②.....  
③..... ④.....  
⑤.....

**成 果**

習熟度を配慮したワークシートを使用した授業は、習熟度に違いを感じる場面ほど効果がありました。苦手意識の強い生徒にも「自分でも何とかできたぞ。」という満足感を与えられ、また余裕のある生徒に対しても「やりがいを感じられる授業」を展開することができました。今後もワークシートに改良を加え、不得意な生徒には「支援」ができ、得意な生徒には「やりがい」が与えられるシートを考えたいと思います。

# 数学の授業における言語活動について

～サブテーマ～

教師の適切な一言で言語活動の充実した授業に

川口市立安行東中学校 教諭 桶舎 真一郎



## はじめに

新学習指導要領では、改訂に当たって充実すべき重要事項の第1として、言語活動の充実が挙げられています。それをふまえ、各教科の指導において言語活動を充実させることが求められています。ここでは、数学の授業における教師と生徒間の言語活動に焦点を当てた事例を紹介したいと思います。

## 実践例

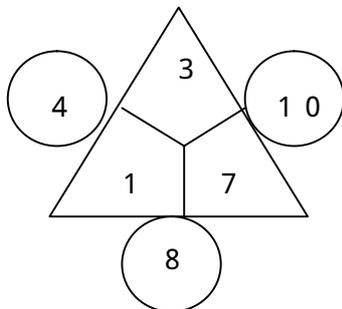
「計算三角形」というパズルを用いて、方程式の導入を行う授業です。4つの場面での言語活動を紹介します。また、各場面で効果的な教師の発問にはアンダーラインをしました。

### (1) 導入課題の場面

「計算三角形」の規則性を説明するのではなく、生徒の発言の中から課題を理解させることを意識してみました。

#### 【導入課題】

図の中に示されている数には、どんな関係があるでしょうか。



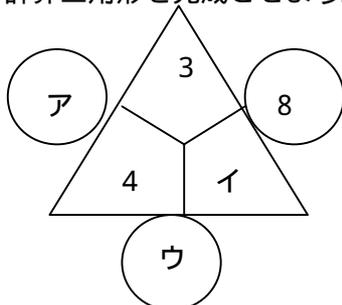
- T : これはなんだと思いますか。  
S 1 : 三角形と丸です  
T : 図の中の数には、どんな関係がありますか。  
S 2 : 三角形の中が奇数で、丸の中が偶数です。  
T : なるほど。ほかには、ありますか？  
S 3 : 三角形の中の2つの数をたすと、外側にある丸の中の数になると思います。  
T : その通りです。これを計算三角形と呼ぶこととします。また、丸ではなく、円と呼んでいきましょう。

### (2) 問題に取り組む場面

「計算三角形」を理解した後に、問題に取り組む場面です。生徒に答えとその理由も発表させます。さらに、切り返しの発問により、問題によっては減法を用いることが必要であることもおさえます。

#### 【問題1】

次の計算三角形を完成させよう。



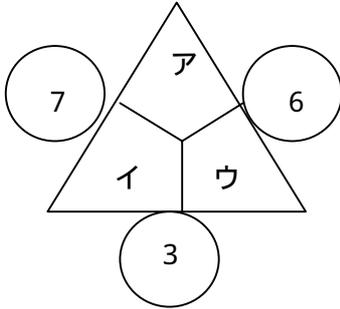
- S 1 : アは  $3 + 4$  で7です。イは  $8 - 3$  で5です。ウは  $4 + 5$  で9です。  
T : イを求めるときは減法なんですね。理由を説明できる人はいますか。  
S 2 : 円の中の数が8と分かっているからです。  
T : そうです。この問題のように、円の中の数がわかっているときは、減法も使います。

### (3)問題に取り組む場面

難易度の高い問題に取り組む場面です。単に答えを発表させるだけでなく、その理由や手順を繰り返しの質問によって深めていきます。

#### 【問題 2】

次の計算三角形を完成させよう。



S 1 : まず、イとウから求めます。

T : なぜイとウから求めるんですか。

S 1 : アから求めるといろいろな場合を考えなくてはいけないからです。イとウなら、足して3なので1か2ということがわかります。

T : なるほど、続けてください。

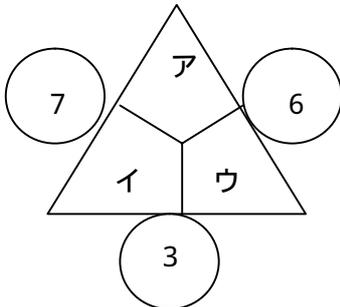
S 1 : 円の中の数を見ると、7と6でイの方が7だから、イが2と予想できます。そうするとウは2で、アは6

### (4)問題に取り組む場面

【問題 2】を方程式の導入につなげる場面です。生徒の発言から、方程式とはどんなものであるかに迫っていきます。

#### 【問題 2】

次の計算三角形を完成させよう。



T : わからないもののうち、アを  $x$  とすると、イとウはどのように表されるでしょうか。

S : ……。

T : 例えば、イは7を用いて、どう表されますか。

S 1 :  $7 - x$  です。

T : そうですね。では、ウはどうですか。

S 2 :  $6 - x$  です。

T : では、イとウをたすと3になることから、どのような等式が成り立つでしょうか。

S 3 :  $7 - x + 6 - x = 3$  です。

T :  $7 - x$ 、 $6 - x$  にはそれぞれ、かっこをつけた方がいいですね。

S 4 :  $(7 - x) + (6 - x) = 3$  です。

T : このように文字  $x$  をふくむ等式を方程式と言います。

## まとめ

実践を通して、数学の授業における言語活動について、次のようなことがわかりました。

- ・日頃から生徒に発言させることで、生徒の発言を中心に授業を進められるようになる。
- ・教師の繰り返しの発問により、授業のねらいにせまる生徒の発言を引き出し、内容を深めていくことができる。
- ・理由を別の生徒に説明させることで、多くの生徒の発言の機会をつくることができる。
- ・生徒にとって難しい問題でも、ヒントとなるような教師の発問により、答えられるようになる。
- ・生徒に発言させるときは、数学的な表現を意識させ、適切な表現ができるようになる。

## 理科 小学校3～6年生「ノート指導」

# パターン化で思考力、表現力がアップするノート指導の工夫

～サブテーマ～

## 自ら学ぶ意欲を育てるノート指導

川口市立元郷南小学校 教諭 武南 利枝



### はじめに

昨今、「理科の授業の進め方や板書の仕方がわからない。」と訴える若い先生が多く見受けられる。また、実験や観察の記録など、ついプリント学習になりがちである。プリントは紛失したり、ノートに貼られていなかったりと、児童にとって管理が難しいという面もある。授業は板書計画を立て、ノート指導に生かすことで、その時間児童に身に付けさせたいことが明確になる。そこで、日々実践しているノート指導について整理し、紹介することにした。

### ねらい

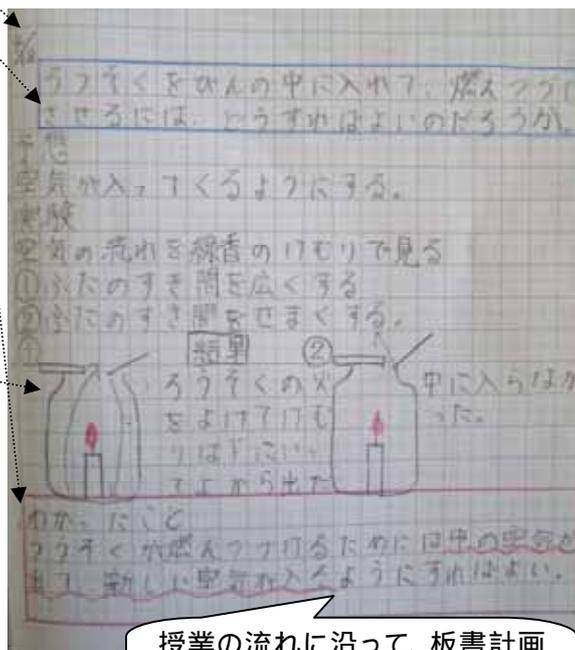
- <教師> 毎回の授業ごとにノート指導を工夫し、1時間の授業の流れを「見える化」、「パターン化」することにより、自信をもって授業を行えるようにする。
- <児童> 毎回決まったノートの書き方を繰り返すことにより、思考力、表現力を高め、理科がわかる、好きになる児童の育成を図る。

### 実践例

#### (1) 基本的な使い方について(ノートの約束)

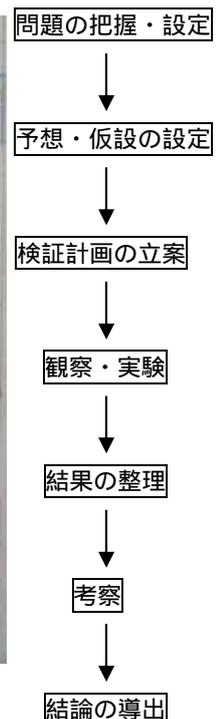
日付を書く  
課題は青、わかったこと、まとめは赤で囲む。  
ただし、板書の際は、青は見づらいので、黄色で囲む。  
1マスに1文字が原則である。  
囲み線や表などの直線を引くときは、必ず定規を使用する。  
結果は図やスケッチ、表などで記録する。  
単位や倍率なども忘れずに記録する。  
観察の場合は、日付、天気、気温、観察場所なども記録する。  
箇条書きなどで、言葉でも書く。

( 分間で『 個以上書きましょう。』と指定する時もある。 )



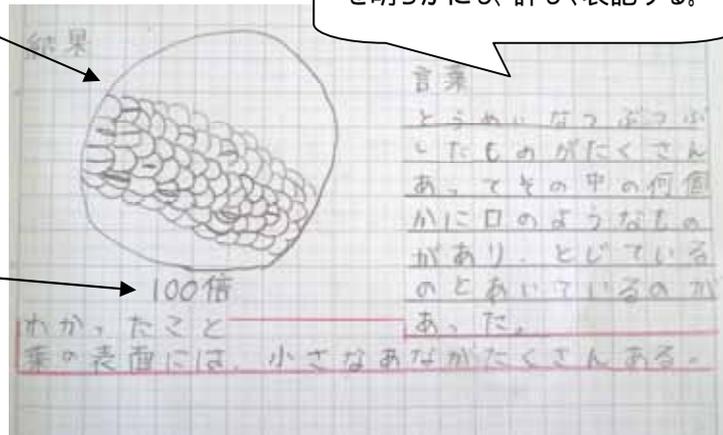
授業の流れに沿って、板書計画を立て、ノート指導に生かす。

#### <授業の流れ>



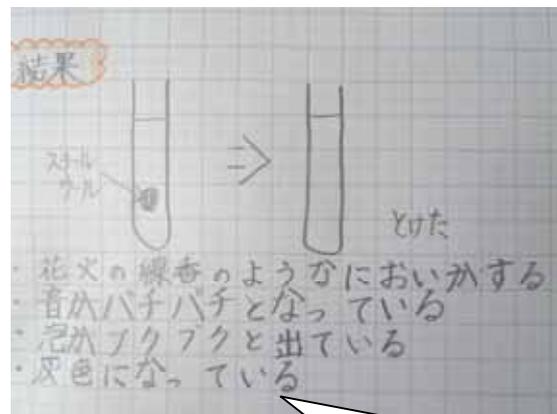
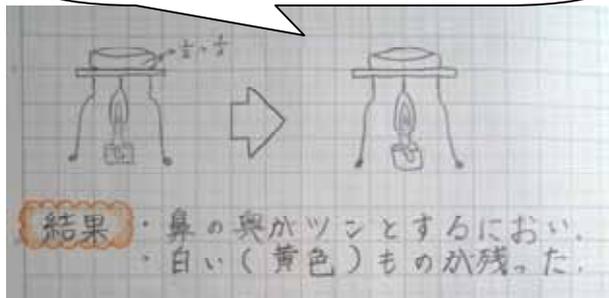
### 【スケッチの約束】

- 1本の線で描く。
- (図工のスケッチとの違いを明確に！)
- スケッチが小さくならないよう、大きさをマス目を利用して伝える。
- (例：「直径が6マスになるような円を描く。）」
- 顕微鏡で観察した時は、倍率を書く。
- 視野をスケッチするので、円を書いて、その中に描く。



### 【言葉で記録するときの約束】

- 五感を使って表現する。
- (色、形、大きさ、におい、手触り、音など)
- 図や絵も、板書する。児童自ら工夫し、描くようになる。



### (2) ノートの形式について

発達段階を考慮し、中学年は10mm方眼を、高学年は8mm方眼を使用することを勧める。方眼を利用し、図、表、グラフなども作成する。

### (3) 自ら学ぶ意欲を育てる

理科のノートを評価するとき、きちんとノートをとっているか確認するだけで終わりにしてしまうことがある。子どもの意欲を高めるためにも評価の工夫を行う。

机間指導をしながら良いことを書いている児童には、花丸など印をつけてあげる。そうすることにより、児童は安心し、自信をもって発表ができる。また、後からノートをチェックするとき、観点別評価にも使える。

良いノートは、お手本として取り上げ、まとめ方が上手なノートや工夫があるノートは、コピーしてコメントを書き、掲示する。掲示された児童は励みにもなり、友達のノートを手本に真似をする児童も出てくる。

## 成果とまとめ

課題とわかったことの整合性に気をつけ、書こうとする児童の姿がみられるようになった。また、ノート指導をパターン化することにより、授業の流れが明確になり、自らノートを工夫し、意欲的に取り組むようになった。ノート指導は学級単位の指導も可能であるが、3学年から6学年まで共通理解を図り、全校統一して実践することが、子ども達の学力向上につながる。ぜひ、ノート指導について、年度当初に理科部を中心に話し合い、全校で意図的・計画的に進めてみてほしい。

## 理科 小学校3～6年生「情報機器等の活用」

# わかる授業・確かな学力へ向けて

～サブテーマ～

## 大型テレビを活用した授業づくり

川口市立青木中央小学校 教諭 吉田 栄



### はじめに

新学習指導要領にはその総則の中に、教育機器の活用として「各教科の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、～中略～、これらの情報手段に加え、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること。」と示されている。わかる授業の実現、確かな学力の育成を図るには、授業の中における情報機器等の活用は不可欠なものとする。

理科の学習において、大型テレビをはじめとする視聴覚機器を効果的に活用すれば、教師の効果的な指導が展開できるだけでなく、児童の自主的・主体的な学習を促すものになる。ここでは、実践を通じた理科の学習における様々な場面での大型テレビの活用例を紹介していく。

### ねらい

理科の学習における大型テレビを効果的に活用することを通し、「わかる授業」の実現、「確かな学力」の育成を図る。

### 実践例

#### (1)写真資料の提示

近年、埼玉県でも都市化が進み、豊かな自然環境が失われつつある現状にある。動植物などの実物を教材として提示できればそれに越したことはないが、環境や時期等の問題により入手が難しい場合などにおいて、大型テレビを活用すると写真資料を簡単に提示できる。自分で撮影した画像データであればもちろん大丈夫だが、インターネットを通じて入手した画像データである場合は、著作権に配慮する必要がある。



#### (2)前時の板書の提示

前時と本時のつながりが深い学習に対して、前時の板書を撮影しておき、その画像を提示することで、本時の学習内容をより深く定着させることができる。特に実験の予想を話し合い、それを観察や実験で確認する授業では、児童の思考の流れを提示することは学力向上の視点からとても効果的である。画像データが記録されているSDカードをスロットルに挿入するだけという簡単な作業で、時間もかからず提示できるのも大型テレビの利点である。授業の質を高め、児童に学習内容のより深い定着を促すことができる。



### (3) 実物投影機と接続して

実験結果からの考察の場面など、児童が自分の言葉で学習した内容をまとめることは、児童に思考力・表現力を高めるために必要不可欠な学習過程である。書き出しの部分やキーワードを示すなどの工夫がその手だてとして大切であるが、実物投影機を大型テレビにつなげることですぐに画面に映し出すことができる。その他にも、観察や実験での細かな作業も実物投影機を用いて大型テレビに映し出すことで、児童に手順を確実に理解させることができる。また、デジタルカメラを USB 端子に直接つないで使用することも可能である。



### (4) 実験方法の提示(プレゼンテーションソフトを用いて)

実験の方法や結果のまとめ方をプレゼンテーションソフトを使用して作成し、提示することが可能である。説明を聞いたり、絵を見たりするだけでは理解しにくい内容も、こうすることで短時間で効率よく理解させることができる。以下は3学年理科「風やゴムのはたらきを調べよう」で作成したプレゼンテーション(一部抜粋)と展開例である。



**8 本時の学習指導**

(1) 目標  
ゴムの伸ばし方を変えて動かしたときの現象を比べて、その違いを考える。(科学的な思考)

(2) 準備  
教師 ・パソコン(プレゼンテーションソフト PowerPoint) ・ゴムで動く車 ・巻尺  
・クリップ ・輪ゴム ・黒板用指示物  
児童 ・ゴムで動く車 ・30cm定規 ・記録用紙(ワークシート)

(3) 展開

児童の主な学習活動・子どものもつ考えや思い	教師の支援 評価 3つの達成目標 学力向上プラン
1 課題を把握する。 ゴムの伸ばし方を変えて、ゴムで動く車の動きを調べよう。	課題から予想されることを話し合う。 日常の生活経験を十分に想起させるようにする。 児童の自由な発想を大切に、考えを広く認める。
2 課題から予想されることを話し合う。 ・長く伸ばせば、速く動く。 ・長く伸ばせば、速く動く。	プレゼンテーションソフトを用い、実験方法や測定の方法について説明することで、実験への発進をもたせ、児童の主体的な活動を促す。 大型テレビの画面で説明することを通し、実験方法の周知徹底を促し、基礎基本の確実な定着を図る。 実験方法が理解できていない児童には、側につき共に実験を行う。
3 実験方法について確認する。 ・Median平均(中央値)について知る。	児童の言葉で黒板にまとめていく。必要に応じて、よりよい表現方法を示すことで言語活動の充実を図る。 距離以外のことでも、児童自身で気付いたことがあれば発表を促す。
4 実験をする。 ・それぞれ3回ずつ実験し、Median平均(中央値)をとる。	児童の言葉で黒板にまとめていく。必要に応じて、よりよい表現方法を示すことで言語活動の充実を図る。 距離以外のことでも、児童自身で気付いたことがあれば発表を促す。
5 実験結果を発表する。 ・ワークシートに記入された結果を班の代表の児童が発表する。	( )内に当てはまる言葉を考えさせる。 「この場合のみこの結果」というおさえ方はせず、結果を一般化させておさえる。 ゴムの伸ばし方を変えて動かしたときの現象を比べて、その違いを考えることができる。 (科学的な思考)【発言・ワークシート】
6 学習のまとめをする。 ゴムの(長い)ときのほうが(短い)ときよりも、ものを動かす力が(大きい)。	

**9 板書計画**

実験結果	実験結果
ゴムの伸ばし方を変えて、ゴムで動く車の動きを調べよう。	動いたきよ( m, cm)
	短いとき 長いとき
	1
	2
	3
	4
	5
	6
	7
	8

実験方法 調べ方

実験の図

ゴムの(長い)ときのほうが(短い)ときよりも、ものを動かす力が(大きい)。

## 成 果

今回、テーマを「情報機器等の活用」と設定し、中でも大型テレビに着目して主に実践を中心に引き上げ、その活用の仕方を考えてきた。このような機器の活用は、児童にとっての「わかる授業」の実現、「確かな学力」の育成において、基礎的・基本的事項の定着という形で大変効果的であったと考える。

全教室に設置された大型テレビは、非常に手軽に利用することができ、高い教育効果が期待できるものである。自然の事象を学ぶ理科においては更に活用の幅も広がるものと思われる。



# 理科 中学校1～3年生「演示実験」

## 目で見て感じて

## 理解を深める！

～サブテーマ～

### 印象に残る演示実験

川口市立上青木中学校 教諭 入野 典子



#### はじめに

理科を学習する上で、実験を楽しみにしている生徒は多い。しかし、常に実験をするばかりでなく、講義中心の授業も多い。そのような中、できるだけ興味のもてる演示実験を見せることで、興味・関心を高め、知識・理解につなげたい。

#### ねらい

「気体の発生方法」について、実際に気体を発生させ性質を調べることを行っているが、そこでは確認できなかったことを、言葉だけでなく実際に目で見ることで、しっかりとした知識につなげる。地震の発生する仕組みがプレートのひずみであることを、身近なガラスが曲がりそして折れることを見ることで印象付ける。体積膨張による温度変化をフラスコの実験で見ているが、もっと温度変化が大きい状態を体験することで、確実な知識につなげる。

#### 実践例

##### (1) シャボン玉を使った気体の性質の演示実験 (中1:気体の性質)

水素と酸素の入ったボンベのストローに、シャボン玉液を付け、シャボン玉をつくると、酸素の方は、ストローの下に付くが、水素はストローの上に付く。

このことから、水素の方が軽い気体であることを感じるができる。

酸素



水素



- シャーレなどにシャボン玉液を入れ、ストローで小さな泡をつくる。
- その泡に、ボンベより水素と酸素をだいたい2：1くらいの割合で入れ、シャボン玉を膨らます。
- bに火のついたマッチを近づけると、パンと大きな音を出して燃える。  
水素は酸素と一緒に混合して点火すると爆発することがわかる。



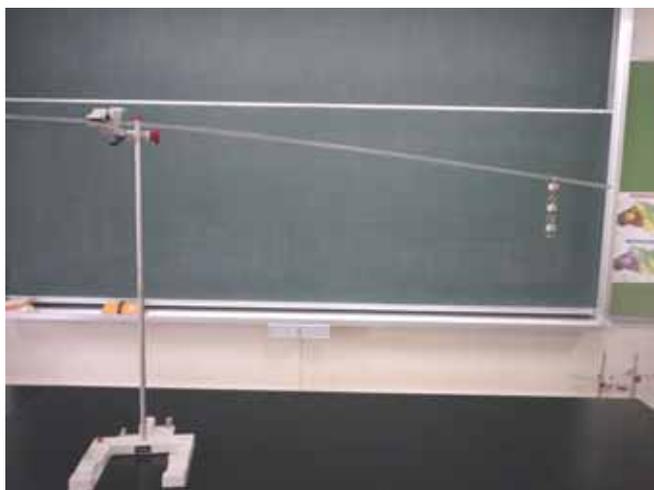
## (2)プレート型地震のおこるしくみについて (中1:動き続ける大地)

長さ10cmのガラス棒の端をスタンドに固定し、反対側の端に力学実験用のおもりをぶら下げる。ガラス棒は曲がり、それでも折れないで頑張る。

おもりを増やしていく。ガラス棒はますますひどく曲がり、今にも折れそうだがそれでも頑張っていて折れない。

さらにおもりを増やしていく。ついに大音響とともに、折れる。

跳ね返りも見られます。



・おもりの上の部分はセロハンテープで固定してある。また、スタンドで止めてある部分も、セロハンテープで補強している。

・おもりは生徒に付けさせた。

おもりから落ちるので、ガラスが粉々になることはないが、見ている生徒の目の高さなどに注意し、破片が入らないよう気を付ける。

### ガラスと岩石の共通点について

ガラスは、石英( $\text{SiO}_2$ )の砂に炭酸ナトリウム( $\text{Na}_2\text{CO}_3$ )や炭酸カルシウム( $\text{CaCO}_3$ )などを混ぜて高温で融かして作る。成分は $\text{SiO}_2$ に $\text{Na}$ や $\text{Ca}$ などが加わった形で、岩石に似ている。 $\text{Si}-\text{O}$ が共有結合であるため力が加わって歪んでも、塑性変形せず弾性変形してエネルギーを蓄え、破壊によって放出する。また、高分子であり、高温で強い粘性を呈する。

生徒へは、ガラスと岩石は成分や性質が似ていることを簡単に説明した。

## (3)体積膨張における温度変化について (中2:雲のでき方と水蒸気)

水で湿らせたティッシュの上から、カセットボンベのせ上から押さえると、缶からブタンガスが出る。

膨張したブタンガスは温度が下がり、ティッシュが凍る。

このことから、気体が膨張したときに温度が下がることを体感することができる。

・「雲のでき方」のところで、気体が膨張したときに温度が下がる部分の説明で利用した。



カセットボンベの使用において、換気を十分にする。また、この実験を行なうときは火気を使用しないなど、扱いや保管には十分気を付ける。

## 成 果

演示実験があるときとないときでは、生徒の興味が随分変わってくることを感じる事ができた。また、印象に残るため、知識にもつながりやすい。ひと手間ではあるが、授業の中で簡単に少しでも何かを見せられるよう努力していくことが大切だと感じる。また、実験をより意欲的に行なう姿勢につなげたい。

# 生徒の視覚に訴える授業の工夫

～サブテーマ～

## 視聴覚機器を活用した授業の工夫

川口市立西中学校 教諭 大倉 芳樹

**はじめに** 大型テレビが各教室に配置され、授業等への有効な活用の仕方が今後、重要になってくる。ここでは、大型テレビとデジタルカメラやパソコンを利用し、比較的簡単に準備ができて理科の授業へ活用できる例を紹介する。

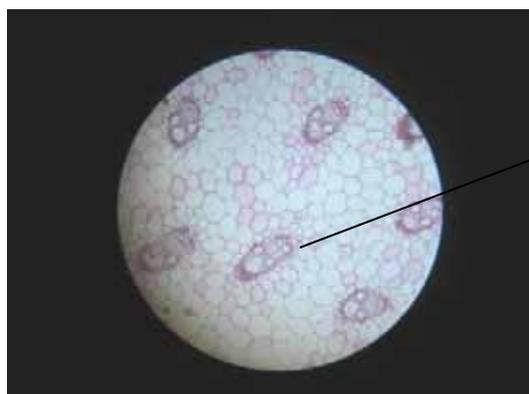
### ねらい

大型テレビ等の視聴覚機器の有効な利用を通して、生徒の視覚に訴え、わかる授業の工夫と確かな学力の育成を図る。

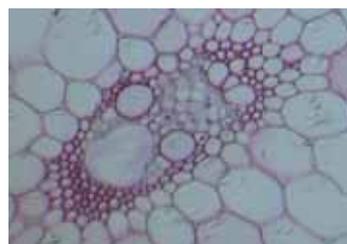
### 実践例

#### (1) デジタルカメラを利用した画像の提示(その1)

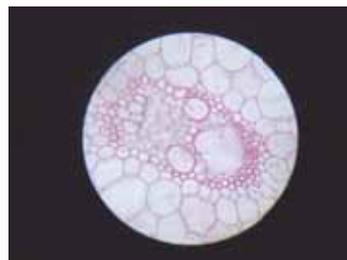
デジタル顕微鏡や実物投影機があれば、大型テレビに顕微鏡の画像を簡単に映すことができるが、これらの機材がなくても、デジタルカメラを使うと簡単に顕微鏡の画像を大型テレビに映すことができる。方法は、ピントを合わせた光学顕微鏡の接眼レンズにデジタルカメラのレンズを接触させ、カメラの画面を確認しながら撮影するだけである。撮影した画像は、記録したSDカードを直接大型テレビのスロットルに挿入すれば提示することができるが、さらに画像をパソコンに取り込み、画像を拡大して提示すると効果的である。この方法だと顕微鏡を高倍率にしたとき、光量をうまく調整できず視野全体が暗くなり見えにくくなるという問題も解決することができる。授業の導入時や観察部分の確認、授業のまとめなどで活用することができる。



デジタルカメラで直接撮影した画像  
(接眼レンズ×10、対物レンズ×10)



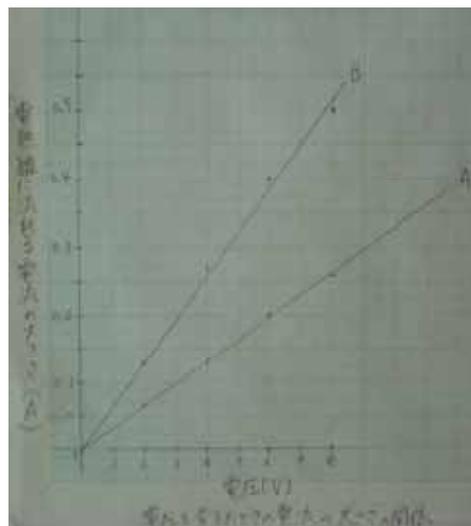
パソコンで拡大した画像(約4倍)  
(さらに拡大することも可能)



デジタルカメラで直接撮影した画像  
(接眼レンズ×10、対物レンズ×40)

## (2) デジタルカメラを利用した画像の提示 (その2)

実験結果を整理する方法にグラフの活用があるが、生徒が作成したグラフをデジタルカメラで直接撮影し、記録した画像をSDカードを用いて直接大型テレビのスロットルに挿入することで簡単に提示することができる。スライドショーの機能を利用すれば、グラフの比較も容易であり、結果の確認や考察、まとめなどで有効に活用することができる。



## (3) 作図ソフトで作成した画像のアニメーション提示

ペイント等の作図ソフトで作成した図を、PowerPointを使って比較的簡単にアニメーションを作ることができる。ここでは中学1年で学習する「光の反射」を例にとって説明する。まず、図1のように完成図を作成しパソコンに保存する(この完成図がアニメーションの最後の画面となる)。次に unnecessary な線や文字を消してアニメーションの完成図から二番目の画面を作成して保存する(図2)。この作業を繰り返し(図3~図5)、最後にプレゼンテーションソフトに順番に貼り付けた上でアニメーション機能を使うと、大型テレビに効果的に提示することができる。大型テレビによる画面の表示でも、アニメーションなどの動きがあると生徒への視覚的效果がより得られ、前時の確認や授業の導入、まとめなどにおいて有効である。

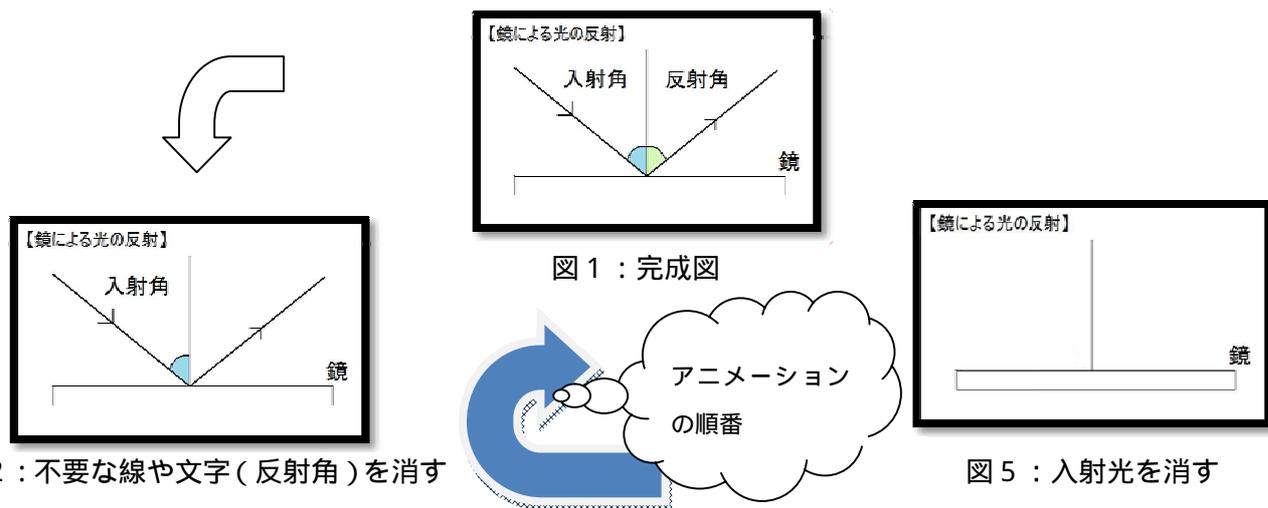


図2：不要な線や文字(反射角)を消す

図5：入射光を消す

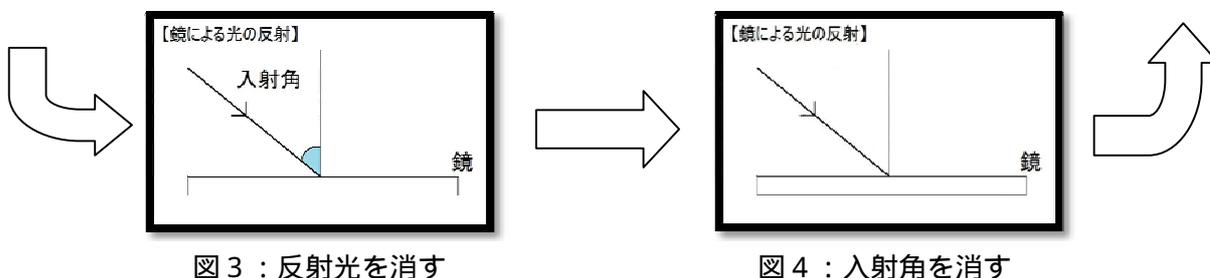


図3：反射光を消す

図4：入射角を消す

## まとめ

今回、いくつかの活用例をあげたが、課題の設定や結果のまとめ等に視聴覚機器を利用し、生徒の視覚に訴えながら授業を進めることはとても有効である。普段の授業の中で必要なときに大型テレビをはじめとした視聴覚機器を使えるようにするために、日頃から機器の操作に慣れ、無理なく簡単に準備ができる事が、視聴覚機器を使う上で大切である。

## 英語 中学校 「話すこと」「書くこと」を統合した言語活動

# 「話して、書いて、身につける」 ～導入時に使えるダイアログ集～

～サブテーマ～

「話す」「書く」を同時にできるEnglish Talking

川口市立青木中学校 教諭 山際 洋一

川口市立戸塚中学校 教諭 岡田 亨恵



### はじめに

新学習指導要領 外国語「第2 各言語の目標及び内容等 2 内容(4) 言語材料の取り扱い」には「発音と綴りとを関連づけて指導すること。」とあるが、「『話す』『聞く』はスムーズにできるけれど、それを文字にして練習する時間がない。」「なかなか『書く』時間がないので宿題にしている。」「言えるけれどそれを文字にすることができない。」という声をよく耳にする。そこでウォーミングアップの短時間で、「話す」「書く」を同時に統合的に指導することをねらいとしたEnglish Talkingを紹介する。

### ねらい

「話す」「聞く」のコミュニケーション活動で得た情報を、「書く」ことを通して深化させる。話したこと、聞いたことを実際に書くことにより、音と文字を結びつけられるようにする。簡単な会話を話せるだけでなく、しっかり書いて表現できるところまで高めることをねらいとする。

### 実践例

#### (1)活動方法について

ワークシートを配り、今まで学習した英文を、復習として、3問程度日本語で黒板に提示する。(できれば1問はかなり前に学習したもの、1問は少し前に学習したもの、1問は最近学習したものがよい。)

そのうちの1問を選ばせ、英語に直してワークシートに書かせる。

1問ずつ英文と答え方を確認し、練習させる。

(日本語の裏に英語を書いておく)

さらに会話が発展するように、生徒一人一人に追加の質問を考えさせる。

選んだ英文で友達3人に質問させる。友達が答えたものを英語でメモさせる。

3人に聞き終わったらワークシートを教師に提出させ、教師がチェックをするとともに、間違いがあればその場で直すなど、生徒一人一人に指導する。



**(2)具体的な活動について**

3つの異なった日本文を出題し、生徒はその中から毎回違った質問を選んで、英文に直す。ワークシートを回収し、もしミスがあればその場で指摘し訂正させ、正しいスペリングや文型を意識させる。

(黒板に提示)

Today's Question

今日の日付は何ですか。

あなたは明日英語を勉強しますか。

あなたは部屋を掃除しなければなりませんか。

これらのうちから一つを選び、英文に直すよう指示する。  
さらに、会話を続けるために、もう一つの質問文も考えさせる。

What's the date today?	It's ~.
Are you going to study English Tomorrow?	Yes, I am. / No, I'm not.
Do you have to clean your room?	Yes, I do. / No, I don't.

全員が活動できるように、英文と答え方を確認し、練習させる。

(生徒のワークシート例 2年)

友達3人に、自分が選んだ文で質問をさせ、その答えを英語で書かせる。

Today's Question                      Date:    /    /

Do you have to clean your room?

Answers

Name	Answer
Yuki	Yes, I do.
Masahiro	No, I don't.
Taro	No, I don't.

(さらに会話を続ける： Do you often help your mother?)



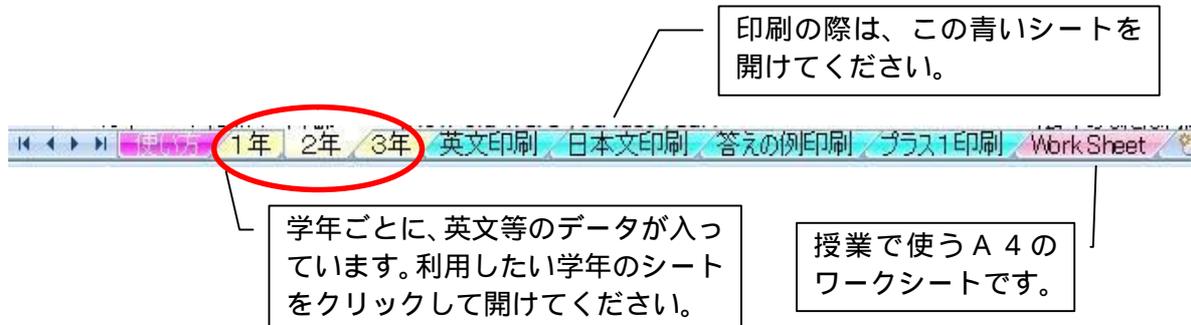
3人に聞き終わったら、ワークシートを提出させ、チェックをする。間違いがあれば、その場で直す。

### (3) ダイアログ集について

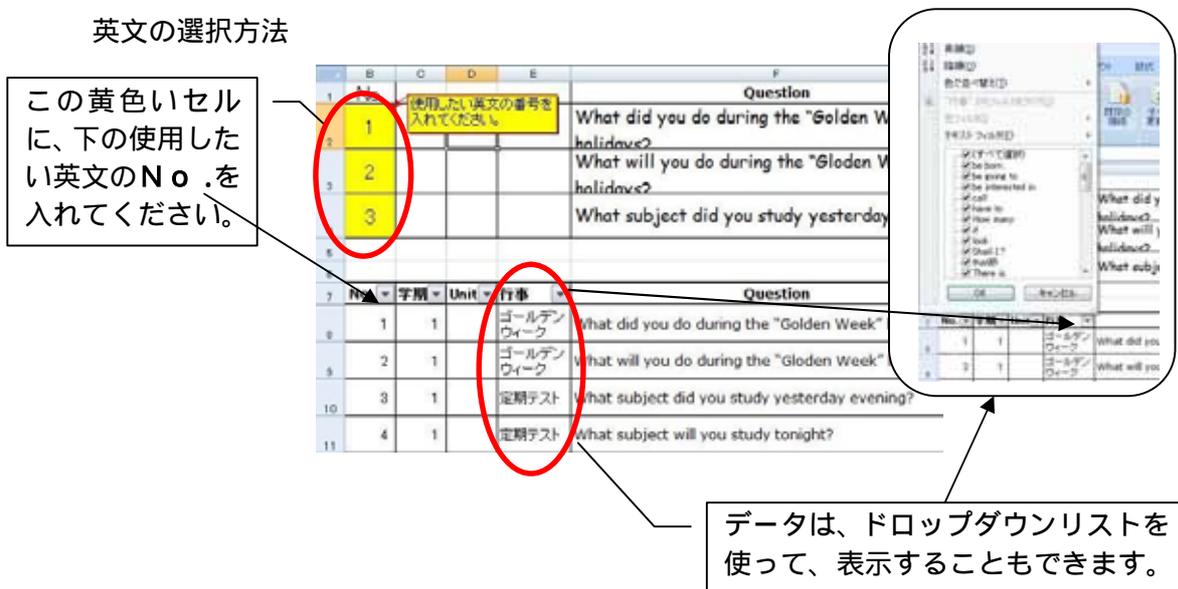
毎時間の英文選択やワークシートの作成時間を短縮するために、この活動のダイアログ集を Excel で作成した。ワークシートは、マクロは使わずにシンプルな関数で構成されていて、使用する際、個人で保存及び、改良することができる。

また、このダイアログ集は、各学校の「英語教育」フォルダに入れる予定である。

ワークシートの構成

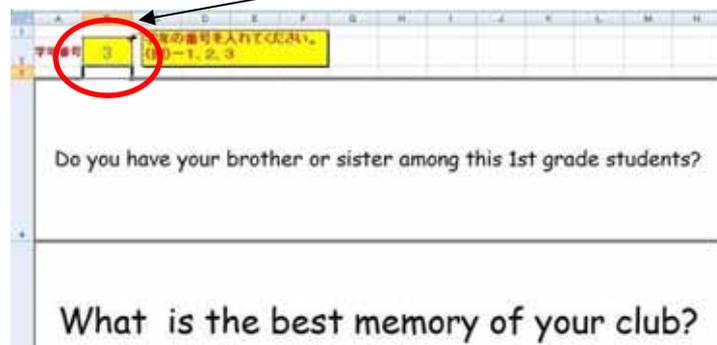


英文の選択方法



選択した文を印刷する。

学年のシートで選択した文は、「英文印刷」「日本文印刷」「答えの例印刷」「プラスワン印刷」のシートで、印刷を行う。学年のシートで選択した文がすぐに印刷画面に反映されるようにはなっていないので、印刷の場合は、学年番号（1年であれば、「1」）を入れる。



印刷用紙は A 4 で設定してある。そのまま、黒板に張ることもできるが、拡大コピーして利用することもできる。

データの内容について

各学年のデータは、左側から、選択用番号 (No.)、学期 (1 ~ 3)、教科書 Unit 番号、行事に分かれている。ただし、行事の項目は、行事と文法事項の両方が混在している。文の内容を変えることや、付け加えたりすることも可能である。

Excel ブックの使用の流れは、以下のようになっている。

- |  |
|--|
| 1 . 使用する学年のシートを開ける。  |
| 2 . 英文リストから 3 つ選び、その番号を黄色いセル (枠) に入力する。                        |
| 3 . 印刷をするために、「英文印刷」「日本文印刷」「答えの例印刷」「プラス 1 (ワン)印刷」のいずれかのシートを開ける。 |
| 4 . シートの左上の黄色いセル (枠) に学年番号を入力する。                               |
| 5 . 選択した文が表示されるので、印刷する。  |

印刷例

英文

What did you do during the "Golden Week" holidays?
What subject did you study yesterday evening?
What do you want to do during summer vacation?

日本文

ゴールデンウィークに何をしましたか。
昨日の夜、何の教科を勉強しましたか。
夏休みに何をしたいですか。

答えの文

I ~.
I studied ~.
I want to ~.

プラスワンの質問文

Where did you go?
How long did you study?
How about studying?

ワークシート

Work Sheet	
Today's Question	Date: /
<input type="text"/>	
Answers	
Name	Answer
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>
Today's Question	
Date: /	
<input type="text"/>	
Answers	
Name	Answer
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>
Today's Question	
Date: /	
<input type="text"/>	
Answers	
Name	Answer
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>
Class No. Name	

「プラスワンの質問文」は、会話をさらに続けるための例として、提示することができます。

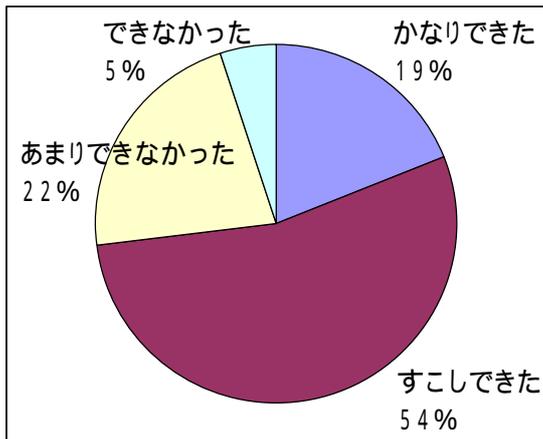
練習は3回(3時間)連続で同じ3つの文を提示します。生徒は、その内の1つの文を選択し、各自英文に直すので、ワークシートは3回分を1枚のシートにまとめています。

## 成 果

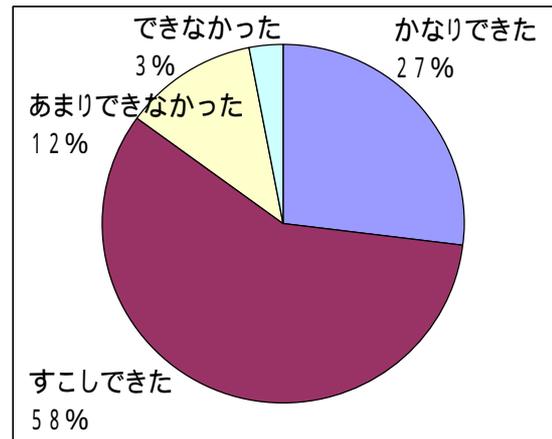
### アンケートの結果

戸塚中学校 平成23年度 第2学年140名にアンケートをとった。次はその結果をグラフに表したものである。

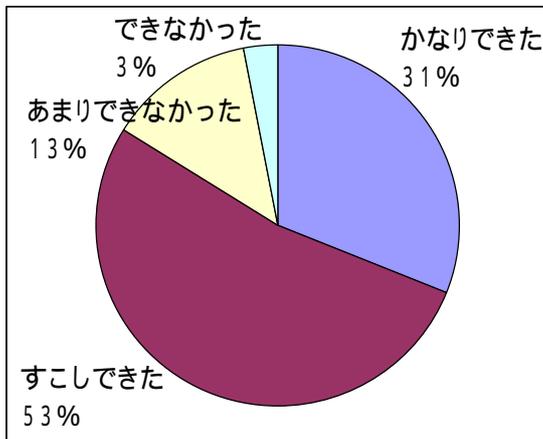
English Talking をすることにより、自分で英文を考えられるようになりましたか



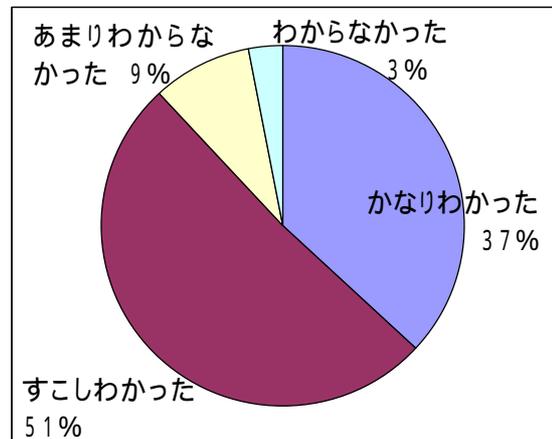
English Talking をすることにより、質問のし方が、わかるようになりましたか



English Talking をすることにより、質問の答え方がわかるようになりましたか



答えを点検してもらって、どこが間違えやすいか、わかるようになりましたか



どの項目も「かなりわかつた」、「すこしわかつた。」が80%近い結果が出た。特に、「答えを点検してもらって、どこが間違えやすいかわかるようになりましたか。」という質問に関しては、90%近くが「わかつた。」と答えている。



## 生徒の感想より



自分から友達に聞いたり、聞か  
れたりして、答えるのがすごく難  
しかったけど、英語を覚えられた  
し、楽しかったです。覚えていな  
い(忘れていた)英文を思い出す  
きっかけにもなってよかったです。

前の復習もでき、友達と英語を使  
って質問できるので良かったです。  
いろいろな文法が理解出来るよう  
にもなって、自分が間違っている  
ところも見つけられました。



スペルの間違いを見つけることが  
でき、1年生の時よりも、スムーズ  
に話せるようになりました。自分  
で考えて、その文が合っていたら、  
すごく嬉しくて、とても自分のため  
になりました。



# バックナンバーもぜひご活用ください

## 国語

### 第1集(平成19年3月)

- 事例1 「音読・朗読・群読で“読む力”を向上！」
- 事例2 「小学校のことを調べてまとめ、発信しよう！」
- 事例3 「さまざまな課題作文を、条件に注意して書く力をつけよう！」
- 事例4 「暗唱を中心に音読の力をつけよう！」

### 第2集(平成20年3月)

- 事例1 「小学校で一番心に残ったことを友達や家族に伝えよう」  
～聞き手に伝わるスピーチ指導の工夫～
- 事例2 「言葉遊びを楽しもう！」  
～言葉遊びを作って楽しむヒント～
- 事例3 「作者の意図を理解して「故郷」を読む」  
～論理的に文章を読む力」を育むために～
- 事例4 「修学旅行の句会を開こう！」  
～修学旅行の俳句を使つての相互評価～

### 第3集(平成21年3月)

- 事例1 相手や場を考えて言葉遣いを考えよう  
～使おう敬語、高学年らしく！～
- 事例2 自分の力で読もう！「海の命」  
～自分で読み進める・考えを持つワークシート学習～
- 事例3 わかりやすく、正確に伝える話し方を学ぼう！  
～話し言葉の基礎学習(わかりやすく、  
正確に伝えるための話の組み立て方について)～
- 事例4 短歌に込められた世界を味わおう！  
～短歌の評論文を書く～

### 第4集(平成22年3月)

- 事例1 お勧めの本を紹介しよう、読みたい本を見つけよう  
～本の紹介、めざせ、発表名人！聞き名人！～
- 事例2 登場人物の気持ちを読み取り表現しよう  
～心情曲線を使って表現し伝え合う学習～
- 事例3 ゲームを通して品詞に慣れよう！  
～文法を表現に生かすために～
- 事例4 広告の工夫を分析してみよう  
～メディアの「落とし穴」にご用心！～

### 第5集(平成23年3月)

- 事例1 「どうぶつの赤ちゃん」ずかんをつくらう  
～主体的に取り組む学習活動を目指して～
- 事例2 「何に見えるかなゲーム」をしよう！  
～めざせ、発表名人！聞き名人！～
- 事例3 百人一首を楽しもう  
～百人一首で音読の楽しさに触れる～
- 事例4 一文字の持つ力に気付こう！  
～読解に役立てる文法～

# 社会

## 第1集(平成19年3月)

- 事例1 「子どもの学習意欲を引き出す資料の活用法」
- 事例2 「わたしたちのまちや都道府県の名前・特徴・位置・形を地図帳やカルタを使って楽しく学ぼう！」
- 事例3 「基礎基本が定着し、児童の興味関心を高めるための資料活用法」
- 事例4 「生徒の興味・関心を高め学力を向上させるための授業の工夫」
- 事例5 「人物名、基礎基本の用語をカルタ等を通じて楽しく学ぼう！」

## 第2集(平成20年3月)

- 事例1 「ぐんぐん進む調べ学習！」  
～アドバイスを生かし、わかる学習へ～
- 事例2 「自分たちで学習問題をつくろう！」  
～アドバイスを生かし、わかる学習へ～
- 事例3 「見て・さわってわかる授業！」  
～アドバイスを生かし、わかる学習へ～
- 事例4 「都道府県テストに挑戦！」  
～関連付けて覚える 反復して覚える～
- 事例5 「身近な地域の歴史学習の充実のために」  
～わが町・川口を歴史学習に生かそう～

## 第3集(平成21年3月)

- 事例1 興味関心を高めてスキルアップ！  
～フラッシュカードやクイズで都道府県・国名を知ろう～
- 事例2 興味関心を高めてスキルアップ  
～スリーヒントで考えよう～
- 事例3 学力と学習意欲の向上のために  
～学力向上の取り組みと実物資料の活用～
- 事例4 言語活動で思考力を高める学習  
～キーワードやカードの利用を通して～

## 第4集(平成22年3月)

- 事例1 興味関心を高めてスキルアップ！  
～フラッシュカードや体を使って方位・地図記号を覚えよう～
- 事例2 繰り返し学習しながら豊富な知識の獲得を
- 事例3 歴史資料を理解する力をつけるために  
～文章資料を身近なものにする取り組み例～
- 事例4 年表を活用して歴史の流れをつかもう！

## 第5集(平成23年3月)

- 事例1 楽しく自然に繰り返し47都道府県を効果的に習得しよう  
～「楽しく」「自然に」「繰り返し」で都道府県を覚える授業の工夫～
- 事例2 興味関心を高め、進んで児童が考える授業を目指して  
～大型テレビを活用した授業実践～
- 事例3 主な国々の位置をクイズ形式で再チェック！  
～「国旗&国歌&童話と、地図帳を併用した班対抗競技」～
- 事例4 世界地図を読む基礎的な力をつけよう  
～スポンジボールを活用した実践～

# 算数・数学

## 第1集(平成19年3月)

- 事例1 「算数セットで楽しく練習しよう！」
- 事例2 「授業の“理解度up”を図り、基礎基本を身に付ける」
- 事例3 「三平方の定理の導入」

## 第2集(平成20年3月)

- 事例1 「名探偵！九九のひみつを見つけて！」  
～数の並び方からきまりを見つけて楽しく学ぶ～
- 事例2 「学ぶ楽しさが味わえる算数授業の工夫(タングラムを活用して)」  
～考える楽しさが味わえる教材～
- 事例3 「トランプゲームで楽しく学ぼう！」  
～トランプを使った正負の数の加法・減法の指導～
- 事例4 「小学校・中学校の関連」  
～小学校の学習内容を理解し、指導に生かそう～

## 第3集(平成21年3月)

- 事例1 少数の世界を広げよう  
～割り切れない商のひみつを見つめよう～
- 事例2 学ぶ楽しさが味わえる算数授業の工夫(分数多角形を教材にして)  
～考える楽しさが味わえる教材～
- 事例3 トランプゲームで楽しく学ぼう！PART2  
～トランプを使った正負の数の下方・減法の指導～
- 事例4 基礎・基本を身につけよう！  
～夏休みを利用した補充学習～

## 第4集(平成22年3月)

- 事例1 効果的な掲示物の工夫  
～学習意欲を喚起する掲示物～
- 事例2 24このおはじきをならべよう  
～多様な発想を生かし、学習を発展させる力を育てる～
- 事例3 証明問題に強くなるう！  
～パターン化による証明問題の指導～
- 事例4 基礎・基本の確実な定着をはかろう！  
～入試予想問題の小テストの実施～

## 第5集(平成23年3月)

- 事例1 ノート指導の工夫  
～今日からできるノート指導～
- 事例2 比較検討場面の指導  
～3年生「2位数×2位数」の比較検討場面の指導をとおして～
- 事例3 個に応じた学習支援の実施  
～学び直しの中から学習意欲の向上へ～
- 事例4 計算力の向上と学習習慣の定着を図る  
～数学計算コンテストと家庭学習帳の取り組み～

# 理 科

## 第1集(平成19年3月)

- 事例1 「一人一人が実感でき、感動できる観察活動のあり方」
- 事例2 「学校は、ふしぎ？ワクワク！小さな科学館」
- 事例3 「星や太陽の動きをデジタル教材でわかりやすく学ぼう！」

## 第2集(平成20年3月)

- 事例1 「理科の力が身につくワークシート」  
~ワークシートを活用し、自然の事物・現象に興味・関心を高め  
問題解決の力や科学的な見方、考え方を身につけさせよう！~
- 事例2 「『理科の達人』になる『理科の達人』をふやす」  
~基礎・基本の定着と学力向上の実現~
- 事例3 「デジタル教材でわかりやすく学ぼう！PART2」  
~デジタル教材の効果的な活用による授業の展開~

## 第3集(平成21年3月)

- 事例1 植物っておもしろいな！  
~身近な植物を観察し、自然の事物・現象に対する興味・  
関心を高めよう！~
- 事例2 進んで取り組み、技能が定着するワークシート！
- 事例3 理科室の掲示物から、情報発信！  
~自ら進んで学べる教育環境の工夫~
- 事例4 計算があってもこわくないワークシートで段階的に理解しよう！  
~計算のつまずきに配慮した湿度計算演習の授業~

## 第4集(平成22年3月)

- 事例1 言語活動の充実を図るために  
~予想をたてたり、自分の考えをまとめる工夫~
- 事例2 手づくり教材のすすめ！  
~身近な素材を使った教材づくり~
- 事例3 デジカメを使った興味をもたせる理科授業！  
~教室のテレビを有効活用した授業展開~
- 事例4 オームの法則を調べる実験器具の工夫  
~豆電球のように、セメント抵抗に  
電流が流れている様子がわかる実験器具の工夫~

## 第5集(平成23年3月)

- 事例1 理科室の環境づくりの工夫  
~理科好きな児童を育てる理科室の環境づくり~
- 事例2 実感を伴った理解を図るための教材の工夫  
~電流による発熱量を視覚的にとらえる工夫~
- 事例3 簡単なモーターづくり  
~整流子のない簡単なモーターを製作する~
- 事例4 目で見て発見！電流と磁界の世界を探ろう  
~マグチップを使った磁界の様子と  
電流磁界観察器を利用した磁界の向き~

# 英 語

## 第1集(平成19年3月)

- 事例1 「川口市英単語検定に挑戦！」  
「英語詩で今の自分を表現しよう！」

## 第2集(平成20年3月)

- 事例1 「英語の学習どこでつまづいた？わからない箇所をやりなおそう！」  
～「つまづき発見・克服シート」の活用～

## 第3集(平成21年3月)

- 事例1 「Waku Waku Writing」  
～書くことを通したコミュニケーション力の向上を目指して～

## 第4集(平成22年3月)

- 事例1 基本的英単語を確実に覚えよう！  
～川口市英単語検定の活用～

## 第4集(平成23年3月)

- 事例1 「スーパーインプット」で語順を正しく覚えよう！

## 平成23年度 川口市児童生徒学力向上推進委員名簿

委員長	川口市教育局学校教育部	部 長	新海今朝巳	
副委員長	川口市立東中学校	校 長	四島 重孝	
	川口市立新郷小学校	教 頭	小沼 和美	
委 員	川口市立東本郷小学校	教 諭	渡辺 美智子	国語
	川口市立並木小学校	教 諭	横田 智子	国語
	川口市立岸川中学校	教 諭	寒河江 真亮	国語
	川口市立芝園中学校	教 諭	岡本 久美子	国語
	川口市立飯仲小学校	教 諭	荒井 倫彦	社会
	川口市立根岸小学校	教 諭	尾田 賢一	社会
	川口市立北中学校	教 諭	松尾 和朋	社会
	川口市立領家中学校	教 諭	稲村 秀治	社会
	川口市立芝中央小学校	教 諭	高橋 長	算数・数学
	川口市立舟戸小学校	教 諭	高橋 涼子	算数・数学
	川口市立東中学校	教 諭	大山 孝一	算数・数学
	川口市立安行東中学校	教 諭	桶舎 真一郎	算数・数学
	川口市立青木中央小学校	教 諭	吉田 栄	理科
	川口市立元郷南小学校	教 諭	武南 利枝	理科
	川口市立西中学校	教 諭	大倉 芳樹	理科
	川口市立上青木中学校	教 諭	入野 典子	理科
	川口市立青木中学校	教 諭	山際 洋一	英語
	川口市立戸塚中学校	教 諭	岡田 亨恵	英語

### 教育局

川口市教育局学校教育部長	新海今朝巳
川口市教育局学校教育部次長兼指導課長	柴田 宏之
川口市教育局学校教育部指導課主幹兼指導係長	阿部 正一
川口市教育局学校教育部指導課主幹兼教育研究所副所長	山口 和伸
川口市教育局学校教育部指導課指導主事	坂井 知子（国語科担当）
川口市教育局学校教育部指導課指導主事	大場 真（社会科担当）
川口市教育局学校教育部指導課指導主事	岸田 健吾（算数・数学科担当）
川口市教育局学校教育部指導課指導主事	伊藤 正雄（理科担当）
川口市教育局学校教育部指導課指導主事	森田 吉信（英語科担当）

